

【 行動・環境文化学系 】

講義コード	講義科目名	授業形態	単位数	講義期間	曜時限	授業担当者	使用言語	履修・聴講可否		シラバス連番	備考
								科目等履修生	学部聴講生		
7102001	系共通科目(心理学)(講義I)	講義	4	通年	月3	藤田 宏・板倉 昭二・阿部 修士・熊田 孝恒・Anderson, James Russell・黒島 妃香・堀 裕亮	日本語	○	○	行動・環境文化学系1	
7106001	系共通科目(心理学)(講義II)	講義	2	前期	月2	黒島 妃香	日本語	○	○	行動・環境文化学系2	
7109001	系共通科目(心理学)(講義IIe)	講義	2	後期	火2	藤田 宏	日本語	○	○	行動・環境文化学系3	
7110001	系共通科目(心理学)(講義Ka)	講義	2	前期	木1	楠見 孝・齊藤 智・野村 理朗・市村 賢士郎	日本語	○	○	行動・環境文化学系4	
7113001	系共通科目(心理学)(講義IId)(発達心理学)	講義	2	前期	火2	板倉 昭二	日本語	○	○	行動・環境文化学系5	
7114001	系共通科目(心理学)(学習・言語心理学)(講義Ib)	講義	2	前期	水2	齊藤 智	日本語	○	○	行動・環境文化学系6	3/11 科目名・講義コード変更
7116001	系共通科目(心理学)(講義Kd)	講義	2	後期	水5	後藤 崇志・楠見 孝	日本語	○	○	行動・環境文化学系7	3/11 科目名・講義コード変更
7131003	心理学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	水5	西崎 友規子	日本語	○	○	行動・環境文化学系8	
7131004	心理学(特殊講義)	特殊講義	2	前期集中	その他	平松 千尋	日本語	○	○	行動・環境文化学系9	
7139001	心理学(臨床心理学概論)(特殊講義)	特殊講義	2	前期	火2	松下 淑歌	日本語	○	○	行動・環境文化学系10	3/11 科目名・講義コード変更
7125001	心理学(心理学の支援法)(特殊講義)	特殊講義	2	後期	火2	田中 康裕	日本語	○	○	行動・環境文化学系11	3/11 科目名・講義コード変更
7136001	心理学(特殊講義A)(知覚・認知心理学)	特殊講義	2	前期	金2	齋木 潤	日本語	○	○	行動・環境文化学系12	
7137001	心理学(特殊講義B)(知覚・認知心理学)	特殊講義	2	後期	金2	齋木 潤	日本語	○	○	行動・環境文化学系13	
7138001	心理学(特殊講義)(神経・生理心理学)	特殊講義	2	前期	水4	阿部 修士	日本語	○	○	行動・環境文化学系14	
7138002	心理学(特殊講義)(神経・生理心理学)	特殊講義	2	前期	金5	櫻井 芳雄	日本語	○	○	行動・環境文化学系15	
7170001	心理学研究法	講義	2	後期	金4	齋木 潤・黒島 妃香・船曳 康子・月浦 崇・大倉 得史・畑中 千紘	日本語	○	○	行動・環境文化学系16	
7172001	心理学概論	講義	2	前期	金3	永田 素彦・熊田 孝恒・楠見 孝・田中 康裕・梅村 高太郎・内田 由紀子・佐藤 弥・横山 薫・足立 幾磨・山田 剛史・山本 真也・齋木 潤	日本語	○	○	行動・環境文化学系17	3/11 担当教員変更
7202001	系共通科目(言語学)(講義I)	講義	2	前期	水4	吉田 豊・千田 俊太郎・定延 利之	日本語	○	○	行動・環境文化学系18	
7204001	系共通科目(言語学)(講義II)	講義	2	後期	水4	吉田 豊・千田 俊太郎・定延 利之	日本語	○	○	行動・環境文化学系19	
7206001	系共通科目(言語学)(講義II)	講義	2	前期	月3	吉田 豊・千田 俊太郎・定延 利之	日本語	○	○	行動・環境文化学系20	
7208001	系共通科目(言語学)(講義II)	講義	2	後期	月3	吉田 豊・千田 俊太郎・定延 利之	日本語	○	○	行動・環境文化学系21	
7231001	言語学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	金3	定延 利之	日本語	○	○	行動・環境文化学系22	
7231002	言語学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	月4	千田 俊太郎	日本語	○	○	行動・環境文化学系23	
7231003	言語学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	水4	CATT, Adam Alvah	日本語	○	○	行動・環境文化学系24	
7231004	言語学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	水3	藤原 敬介	日本語	○	○	行動・環境文化学系25	
7231005	言語学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	水3	藤原 敬介	日本語	○	○	行動・環境文化学系26	
7231008	言語学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	木3	荻原 裕敏	日本語	○	○	行動・環境文化学系27	
7231009	言語学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	金2	上田 功	日本語	○	○	行動・環境文化学系28	
7231010	言語学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	月3	宮本 隆一	日本語	○	○	行動・環境文化学系29	
7231012	言語学(特殊講義)	特殊講義	2	前期集中	その他	並子 達也	日本語	○	○	行動・環境文化学系30	
7231015	言語学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	月4	千田 俊太郎	日本語	○	○	行動・環境文化学系31	
7231016	言語学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	金3	定延 利之	日本語	○	○	行動・環境文化学系32	
7241001	言語学(演習)	演習	2	後期	水2	梅間 安子	日本語	○	○	行動・環境文化学系33	
7241002	言語学(演習)	演習	2	前期	水2	ハ/ハワ/ダナ ルチラ	日本語	○	○	行動・環境文化学系34	
7241003	言語学(演習)	演習	2	前期	火4	吉田 豊・千田 俊太郎・定延 利之	日本語	○	○	行動・環境文化学系35	
7241004	言語学(演習)	演習	2	後期	火4	吉田 豊	日本語	○	○	行動・環境文化学系36	
7245001	言語学(卒論演習)	卒論演習	2	後期	水5	吉田 豊・千田 俊太郎・CATT, Adam Alvah・定延 利之	日本語	○	○	行動・環境文化学系37	
7246001	言語学(基礎演習)	基礎演習	2	前期	金3	南本 徹	日本語	○	○	行動・環境文化学系38	
7246002	言語学(基礎演習)	基礎演習	2	後期	金3	千田 俊太郎	日本語	○	○	行動・環境文化学系39	
7302001	系共通科目(社会学)(講義)	講義	2	前期	水2	田中 紀行・落合 恵美子	日本語	○	○	行動・環境文化学系40	3/11 担当教員・シラバス変更
7304001	系共通科目(社会学)(講義)	講義	2	後期	水2	太郎丸 博・松田 素二	日本語	○	○	行動・環境文化学系41	3/11 担当教員・シラバス変更
7331001	社会学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	月2	松田 素二・太郎丸 博	日本語	○	○	行動・環境文化学系42	
7331002	社会学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	水2	安里 和晃	日本語	○	○	行動・環境文化学系43	
7331003	社会学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	火2	Stephane Heim	日本語	○	○	行動・環境文化学系44	
7331004	社会学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	金3	荻野 昌弘	日本語	○	○	行動・環境文化学系45	
7331005	社会学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	金3	荻野 昌弘	日本語	○	○	行動・環境文化学系46	
7331006	社会学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	水5	竹沢 泰子	日本語	○	○	行動・環境文化学系47	
7331007	社会学(特殊講義)	特殊講義	2	前期集中	その他	武川 正吾	日本語	○	○	行動・環境文化学系48	
7331008	社会学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	金1	伊藤 理史	日本語	○	○	行動・環境文化学系49	
7331009	社会学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	金4	野田 浩資	日本語	○	○	行動・環境文化学系50	
7331010	社会学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	月2	丸山 里美	日本語	○	○	行動・環境文化学系51	
7331011	社会学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	月3	阿部 真大	日本語	○	○	行動・環境文化学系52	
7331018	社会学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	金2	辻 竜平	日本語	○	○	行動・環境文化学系53	
7331019	社会学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	火3	落合 恵美子	日本語	○	○	行動・環境文化学系54	
7331025	社会学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	月5	落合 恵美子	英語	○	○	行動・環境文化学系55	
7331027	社会学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	木2	安里 和晃	英語	○	○	行動・環境文化学系56	
7331030	社会学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	金2	安里 和晃	英語	○	○	行動・環境文化学系57	
7331031	社会学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	金2	田中 紀行	日本語	○	○	行動・環境文化学系58	
7331033	社会学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	月4	丸山 里美	日本語	○	○	行動・環境文化学系59	
7334001	社会学(特殊講義)	特殊講義	3	前期	月4	落合 恵美子・Stephane Heim	日本語及 び英語	○	○	行動・環境文化学系60	
7361002	社会学(実習)	実習	2	通年	水4	太郎丸 博	日本語	○	○	行動・環境文化学系61	
7401001	系共通科目(地理学)(講義)	講義	4	通年	火4	水野 一晴・米家 泰作	日本語	○	○	行動・環境文化学系62	
7431001	地理学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	水2	水野 一晴	日本語	○	○	行動・環境文化学系63	
7431002	地理学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	水2	水野 一晴	日本語	○	○	行動・環境文化学系64	
7431003	地理学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	金2	米家 泰作	日本語	○	○	行動・環境文化学系65	
7431004	地理学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	金2	米家 泰作	日本語	○	○	行動・環境文化学系66	
7431008	地理学(特殊講義)	特殊講義	2	前期集中	その他	松久 雄勝	日本語	○	○	行動・環境文化学系67	
7431010	地理学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	木3	内藤 正典	日本語	○	○	行動・環境文化学系68	
7431011	地理学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	木4	内藤 正典	日本語	○	○	行動・環境文化学系69	
7431012	地理学(特殊講義)	特殊講義	2	前期集中	その他	小池 司朗	日本語	○	○	行動・環境文化学系70	
7431013	地理学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	月5	手代木 功基	日本語	○	○	行動・環境文化学系71	
7431014	地理学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	木2	手代木 功基	日本語	○	○	行動・環境文化学系72	
7431015	地理学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	月1	杉浦 和子	日本語	○	○	行動・環境文化学系73	
7431016	地理学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	月1	杉浦 和子	日本語	○	○	行動・環境文化学系74	

行動・環境文化学系 1

科目ナンバリング		U-LET28 27102 LJ46									
授業科目名 <英訳>	系共通科目(心理学)(講義 I) Psychology (Lectures)					担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 蘆田 宏 文学研究科 教授 板倉 昭二 こころの未来研究センター 特定准教授 阿部 修士 情報学研究科 教授 熊田 孝恒 文学研究科 教授 Anderson, James Russell 文学研究科 准教授 黒島 妃香 文学研究科 助教 堀 裕亮 文学研究科 確認用				
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目	実験心理学概論										
[授業の概要・目的]											
この講義の目的は、実験心理学の基礎的知識から最新の研究成果を身につけることにある。多様な心理学領域から、行動の科学としての目的、問題、手法、考え方などを学ぶとともに、最新の研究成果を知ることによって実験心理学を概観する。											
[到達目標]											
実験心理学の多様な領域に関する基本事項を理解するとともに、その最新の研究成果に触れることによって現在の研究の動向を理解することができるようになる。											
[授業計画と内容]											
ヒトや動物の行動を解明するための実験心理学的手法とその成果について、最新のトピックやデモを織り込みながら、講座の教員全員および関連部局の教員によるリレー形式で講じる。 講義内容は以下の通りである。必修科目ではないが、心理学専修を希望する者はぜひ履修するよう強く推奨したい。											
第1回	実験心理学とは何か (全員)										
第2回	脳と神経(蘆田)										
第3回	感覚知覚の諸相(蘆田)										
第4回	感覚知覚の基本法則と歴史(蘆田)										
第5回	感覚知覚測定法(蘆田)										
第6回	知能とAI(蘆田)										
第7回	社会的認知(阿部)										
第8回	意思決定(阿部)										
第9回	注意(熊田)										
第10回	実行機能(熊田)										
第11回	発達研究法(板倉)										
第12回	乳幼児期の認知発達(板倉)										
第13回	乳幼児期の社会的認知の発達(板倉)										
第14回	感情の研究方法与理論(板倉)										
第15回	動機づけ(板倉)										
第16回	愛着(Anderson)										
第17回	非言語コミュニケーション(Anderson)										
第18回	自己認識(Anderson)										
系共通科目(心理学)(講義 I)(2)へ続く											

系共通科目(心理学)(講義Ⅰ)(2)

- 第19回 セルフコントロール (Anderson)
第20回 学習理論 (黒島)
第21回 学習の制約 (黒島)
第22回 言語 (黒島)
第23回 記憶 (黒島)
第24回 動物の社会的認知 (協力行動と高次感情) (黒島)
第25回 個性・性格 (堀)
第26回 遺伝と環境 (堀)
第27回 思考と推論 (堀)
第28回 メタ認知 (堀)
第29回 総括 (全員)
第30回 試験

フィードバックについては授業中に指示する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

定期試験 (筆記) による

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

京都大学心理学連合 『心理学概論』 (ナカニシヤ出版) ISBN:9784779503993 (心理学の全貌を基礎から知るための概論書。)

[授業外学習 (予習・復習) 等]

紹介された文献や参考図書を読んでおくこと。

(その他 (オフィスアワー等))

心理学専修を希望する可能性がある者は、2回生で履修することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系 2

科目ナンバリング		U-LET28 27106 LJ46									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義IIb) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 黒島 妃香 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		知性と感情の系統発生論									
【授業の概要・目的】											
多様な動物種の知性と感情の機能を学び、それらがいかに進化したのか、ヒトの心の働きは其中でいかに位置づけられるのかを考察する。											
【到達目標】											
動物たちのゆたかな心の働きを知り、心の多様性を学び、ヒトの心を相対化することを通じて、ヒト中心主義を脱し、新たなヒト観を構築する。ヒトが決して特別な存在ではないこと、多様な心の存在が地球共生系の未来へのカギであることを理解し、全ての生にとって真に幸福な未来を志向した、新たな行動指針を考える力を身につける。											
【授業計画と内容】											
ヒトの心の機能は数十億年にわたる進化の所産である。化石種の心が直接的に調べられない以上、他の現生動物種の心の働きを分析し、相互に比較することが、その過程を跡づけるための可能な唯一の方法である。講義では、学習の原理について復習したあと、比較認知科学的観点から、多様な動物種の感覚や知覚、記憶、言語、概念形成、感情、社会的知性、意識などについて現在までに得られた諸事実を紹介し、心の多様性とその進化について論じるとともに、ヒトの心を動物たちの心の中にどのように位置づければよいかを考える。以下の予定で講じるが、適宜変更もありうる。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．イントロ - 比較認知科学事始め 2．学習 1 (学習の基本的諸原理) 3．学習 2 (学習の生物学) 4．動物たちから見た世界 - 感覚・知覚 1 (色彩視) 5．動物たちから見た世界 - 感覚・知覚 2 (形態視) 6．動物たちの記憶 7．動物たちの思考 1 (概念) 8．動物たちの思考 2 (推理) 9．動物たちのコミュニケーション 10．動物たちの社会的知性と感情 1 (感情) 11．動物たちの社会的知性と感情 2 (戦術的社会技能 - 欺きと協力) 12．動物たちの社会的知性と感情 3 (社会的知性の諸要素) 13．動物たちの意識と内省 1 (自己認知、メタ認知) 14．動物たちの意識と内省 2 / 総括と討論 (エピソード記憶、心的時間旅行) 15．フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目(心理学)(講義IIb)(2)へ続く -----											

系共通科目(心理学)(講義IIb)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

評価方法：平常点（20%）、及びレポート（80%）により評価する
評価基準：レポートについては、到達目標の達成度に基づき評価する

[教科書]

藤田和生 『比較認知科学への招待－こころの進化学』（ナカニシヤ出版）ISBN:4-88848-437-6（比較認知科学の教科書。必携ではないが、講義内容の整理復習等に重要である）

[参考書等]

（参考書）

藤田和生 『動物たちのゆたかな心』（京都大学学術出版会）ISBN:9784876988228（講師のラボでおこなわれた研究を中心にまとめた読み物）

藤田和生 『比較認知科学』（放送大学教育振興会（NHK出版））ISBN:9784595317040（放送大学の同名の科目の印刷教材。「比較行動学」の改訂版として2017年3月に刊行。最新の比較認知科学の内容が平易に論じられている）

藤田和生（編著） 『動物たちは何を考えている？ 動物心理学の挑戦』（技術評論社）ISBN:9784774172583 C3045（動物の心の働きに関するさまざまな話題と最新の成果をQ&Aの形で紹介したもの）

[授業外学習（予習・復習）等]

毎回の講義内容を、レジュメや教科書、参考書などを参照して、整理しておくことが重要である。

（その他（オフィスアワー等））

受講者には、毎回の授業への出席と、積極的な質問や討論を期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系 3

科目ナンバリング		U-LET28 27109 LJ46									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義IIe) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 蘆田 宏 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		心理学講義IIe：知覚心理学									
【授業の概要・目的】											
人間の感覚・知覚について、視知覚を中心に概説する。心理物理学、解剖学、神経生理学などの知見をあわせて感覚・知覚の諸機能とそのメカニズムについて理解を深めることを目的とする。											
【到達目標】											
ヒトの知覚機能についての基本的事項を理解し、心理学におけるより専門的なトピックを理解するための基礎を習得する。											
【授業計画と内容】											
講義内容は次の通り。											
<ol style="list-style-type: none"> 1 錯視と恒常性 2 視覚メカニズムと補完 3 色覚 4 明るさの知覚 5 運動視 6 立体視 7 顔の知覚 8 眼球運動 9 聴覚 10 味覚と嗅覚 11 多感覚相互作用 12 時間知覚と注意 13 美の知覚 14 総括 15 期末試験 											
フィードバックについては授業中に指示する。											
なお、状況により一部の順序、内容を変更する可能性がある。											
【履修要件】											
特になし											
-----系共通科目(心理学)(講義IIe)(2)へ続く-----											

系共通科目(心理学)(講義Ile)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

期末試験（筆記）による。講義範囲についての到達目標達成度により評価する。授業中の発言等、特に積極的な参加が認められる場合に加点する可能性がある。

[教科書]

北岡明佳編 『知覚心理学』（ミネルヴァ書房）ISBN:978-4-623-05769-6（必須ではないが強く推奨する。）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

講義の後に教科書や関連する本，ウェブサイトなどを見て基本的事項を確認するとともに，各自の興味に合わせてより詳細な理解を得るように努める。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは設定しない。面談希望はメールで受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 27110 LJ46									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義Ka) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 楠見 孝 教育学研究科 教授 齊藤 智 教育学研究科 准教授 野村 理朗 国際高等教育院 特定助教 市村 賢士郎 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		認知デザイン特論									
【授業の概要・目的】											
デザインという人間の営みを、脳・心・行動の3つの水準で捉える認知心理学の理論から、総合的に考察することがこの授業の目的である。まず、脳・心・行動そのものがそれぞれどのようにデザインされているのかを知ることが重要である。次に、脳・心・行動のもつ制約と、その制約を逆手に取った豊かな認知的活動との関連を考察する。その次に、脳・心・行動のどのようなはたらきがどのような豊かなデザインを生み出しうるのかについての関連性を文芸・絵画の事例を取り上げて考察する。最後に、豊かなデザインを生み出す能力を高めるために、脳・心・行動を発達させ、活性化させるためのさまざまな環境要因について考察する。											
【到達目標】											
認知心理学の理論を基盤として、脳・心・行動そのものがどうデザインされているのかを知り、それらと認知活動との関連、および豊かなデザインを生み出す能力を高めるための環境要因について考察できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：認知機能の制約とデザイン 2. 知覚機能の制約 3. 行動の制約 4. 視覚情報のデザイン 5. 記憶の制約 6. ブレイン・サイエンス：脳のデザイン 7. 遺伝子の機能：行動のデザイン 8. 生育環境のデザイン 9. エラーのデザイン 10. 言語芸術のデザイン 11. 学習動機づけのデザイン 12. メディア・学習環境のデザイン 13. エラーを活かすデザイン 14. まとめ/評価 15. フィードバック 											
* 授業の順序は変更することがある。その場合は、事前に通知をする。											
----- 系共通科目(心理学)(講義Ka)(2)へ続く -----											

系共通科目(心理学)(講義Ka)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

授業の参加，試験などに基づく総合評価
評価基準は、到達目標について、教育学部の評価基準に従って評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

子安増生・楠見孝・齊藤智・野村理朗（編）『教育認知心理学の展望』（ナカニシヤ出版）ISBN: 477951049X（その他は、授業中に紹介する。）

【授業外学習（予習・復習）等】

授業中に紹介された参考図書・論文、配布資料等を用いて復習する。

（その他（オフィスアワー等））

授業責任者連絡先 E-mailアドレス kusumi.takashi.7u@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系 5

科目ナンバリング		U-LET28 27113 LJ46									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義IId) (発達心理学) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		板倉 昭二 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		社会的認知発生論 (発達心理学)									
【授業の概要・目的】											
社会性の発達とは、社会生活を営む上で、極めて重要なことである。本講義では、人の発達を一生涯の時間軸に伴う変化と捉え、特に社会的認知、すなわち、自己認知、他者認知、自他の関係、他-他の関係の理解の発達に焦点を当てる。心の理論の成立のメカニズムや意図理解のメカニズム、また社会性の発達を推進するメカニズムやプロセスを理解することを狙いとする。											
【到達目標】											
乳幼児期から老年期まで、人の一生を通じた社会性の発達に関するプロセスやメカニズムを説明できるようにする。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、講義の進捗状況によっては、順序を変えることもある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 発達科学とは何か 2 発達科学の方法 3 社会性とは何か 4 遺伝と環境 5 胎児の発達 6 新生児の能力 7 乳児期から児童期への発達 8 青年期 9 成人期 10 老年期 11 生涯発達 12 社会脳について 13 発達障がい 14 向社会行動・道徳行動の発達 15 社会性の発達に関するまとめ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点評価 (80点) および最後の授業時間内に課題を課す (20点)											
【教科書】											
使用しない											
----- 系共通科目(心理学)(講義IId) (発達心理学) (2)へ続く -----											

系共通科目(心理学)(講義IId)(発達心理学)(2)

[参考書等]

(参考書)

板倉昭二 『発達科学の最前線』 (ミネルヴァ書房)

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に別途指示する。読んでおくべき論文や文献等紹介する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 27114 LJ46									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義Kb) (学習・言語心理学) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 文学研究科		齊藤 智 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		教育心理学概論II (学習・言語心理学)									
【授業の概要・目的】											
教育心理学における重要概念である「学習」と「記憶」について、幼児、児童及び生徒の心身の発達 の過程及び特徴をふまえたうえで、その基本的な研究パラダイムを紹介する。各パラダイムを、 問題設定、具体的な研究、そこから得られた結果の評価という観点から論じることで、教育心理学 分野において行われる研究の意味を考える。											
【到達目標】											
学習・記憶研究において用いられる基本的な研究パラダイムを、関連する理論的展開とともに理解 する。研究パラダイムの探究を通じて、幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、 発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。さらに、幼児、児童及び生 徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下の単元について講述する。各単元は、1~3週の授業時間において紹介されるが、それぞれは、 具体的な研究パラダイムとの関連で理解されるべきものである。そのため、基本的には、各種の研 究パラダイムを毎回のテーマとして設定し、授業を進めていく。授業の進行状況によって、単元の 順序が入れ替わることもある。											
第1回：教育心理学における学習・記憶研究の役割											
第2回：学習と記憶の基礎：パラダイムから学ぶ											
第3回：記憶の構造：妨害パラダイム											
第4回：記憶の働き：妨害パラダイム											
第5回：学習活動の効果：符号化パラダイム（処理水準）											
第6回：学習活動の効果：符号化パラダイム（多重符号化）											
第7回：学習結果の評価：再生・再認パラダイム											
第8回：学習結果の評価：潜在記憶パラダイム											
第9回：学習結果の評価：分離パラダイム											
第10回：学習活動の制御：忘却パラダイム											
第11回：学習活動の制御と発達：実行機能パラダイム											
第12回：学習・記憶機能の発達と障害：作動記憶パラダイム											
第13回：学習・記憶機能の発達と障害：個人差パラダイム											
第14回：学習・記憶研究の展開											
第15回：試験											
第16回：フィードバック											
フィードバック方法は別途連絡する											
系共通科目(心理学)(講義Kb) (学習・言語心理学) (2)へ続く											

系共通科目(心理学)(講義Kb)(学習・言語心理学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

学習・記憶研究において用いられる基本的な研究パラダイムを、関連する理論的展開を含め、どの程度理解できているかが成績評価の基準となる。
評価は、小テスト(40点)と学期末試験(60点)の結果に基づいて行う。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

配布する資料、指示する参考書や参考文献に目を通し、授業の予習、復習に役立てること。また、関心を持ったテーマについては、図書館等を利用して、自ら資料を収集し、復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義Kd) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		滋賀県立大学人間文化学部 助教 後藤 崇志 教育学研究科 教授 楠見 孝 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時間	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		学習と発達のエデュケーション心理学									
【授業の概要・目的】											
<p>教育心理学における重要概念である「学習」と「発達」について、最初に、土台となる最新の基礎研究について解説をする。つぎに、学校教育に関わる新しいトピックを教育心理学の理論に基づいて解説する。最後に、各教科における学習と発達について、実践例を取り上げながら、教育心理学の理論と知見に基づいて解説する。</p>											
【到達目標】											
<p>幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識と理論を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。さらに、幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：はじめに：教育心理学とは（後藤） 第2回：21世紀型学力と思考力の発達と評価（楠見） 第3回：発達と遺伝：運動，認知，社会性（後藤） 第4回：発達・学習における個人差と評価（後藤） 第5回：記憶・知識と発達（後藤） 第6回：学習動機づけ（後藤） 第7回：学習におけるICT・メディア活用（後藤） 第8回：アクティブラーニング（後藤） 第9回：教室内の相互作用と集団作り（後藤） 第10回：探究的な学習・課題研究（後藤） 第11回：国語・読書教育における言語の発達と学習（後藤） 第12回：社会科教育における社会的認識の発達と学習（後藤） 第13回：算数・数学教育における数学的認識の発達と学習（後藤） 第14回：理科教育における科学的認識の発達と学習（後藤） 第15回：まとめ：発達と学習の統合理論と実践（後藤） 定期試験とフィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
-----系共通科目(心理学)(講義Kd)(2)へ続く-----											

系共通科目(心理学)(講義Kd)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

【評価方法】評価は、毎回の授業における課題（30点）と学期末試験（70点）の結果に基づいて行う。

【評価基準】学習・発達研究において用いられる基本的な研究パラダイムを、関連する理論的展開を含め、どの程度理解できているかが成績評価の基準となる。

[教科書]

楠見 孝（編）『教育心理学（教職教養講座 第8巻）』（協同出版）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

授業の前後には教科書の該当箇所を読み、内容についての理解を深める。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系 8

科目ナンバリング		U-LET28 37131 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 西崎 友規子 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知心理学の社会への応用									
[授業の概要・目的]											
人間とモノとの関わりにおいて重要となる認知情報処理過程の基礎を概説し、社会で起きる問題が認知心理学研究によって解決する策があることを事例とともに解説する。適宜、個人またはグループ毎に課題を課し、認知心理学で扱う問題が、身近なものであることを学ぶ。											
[到達目標]											
認知心理学を社会にどのように役立てていくことができるかの理解を深め、さらに日常生活で起こるさまざまな問題について、認知心理学の応用的な視点から考察することができるようになる。											
[授業計画と内容]											
第1回：オリエンテーション 第2回：認知心理学の応用意義 第3回－第7回：認知心理学を応用する際に必要な基本的知識の概説（ヒューマンエラーと認知情報処理，認知の個人差） 第8回－第14回：認知心理学の社会への応用事例 第15回：事前に提示する課題に対する個人発表と討論											
受講者の習熟度や授業の進行状況によって、回数や順序に変更が生じることがある。フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
毎回授業最後に小レポートにて意見を求める。また、期間中に複数回、個人またはグループに課題を課し、発表を行ってもらう。小レポートの内容（30%）、課題への取り組み姿勢と内容（20%）、最終回での発表内容（50%）により評価する											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
授業中に紹介する参考図書、論文、資料を活用して要点を復習する。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系 9

科目ナンバリング		U-LET28 37131 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 平松 千尋 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		視覚の至近要因と究極要因									
[授業の概要・目的]											
本講義の目的は、ヒトやその他の動物における視覚の機能（至近要因）を理解し、進化的考察（究極要因）を加えることである。視覚に関わる遺伝子や神経基盤の共通性と多様性を概観し、視覚の個体差についても議論する。											
[到達目標]											
ヒトやその他の動物における視覚の機能や意義を進化的視点から説明できるようになる。また、視覚に関わる遺伝子や神経基盤、視覚の個体差について議論できるようになる。											
[授業計画と内容]											
回ごとの区切りを設けにくい集中講義のため、以下のように、複数回分に相当する4つのサブテーマを設け、最後に総括とフィードバックを行う。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．視覚の進化と多様性（1～4回） 2．網膜における視覚情報処理（5～8回） 3．大脳皮質における視覚情報処理（9～12回） 4．視覚の多様性（13～14回） 5．総括とフィードバック（15回） 											
授業の進行状況によって、回数や順序に変更が生じることがある。 フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業内に提出するレポートにより評価する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する 特になし											
[授業外学習（予習・復習）等]											
特になし											
（その他（オフィスアワー等））											
集中講義のため、開講日時については5月初旬にKULASISを通して連絡する。 集中講義のため、成績報告が遅くなる可能性がある。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義)(臨床心理学概論) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 准教授 松下 姫歌 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		臨床心理学概論 I Introduction to Clinical Psychology I									
【授業の概要・目的】											
<p>心理療法とは何か、治癒や成長とは何か、という本質的問題を根底において、心理療法とその基礎理論である臨床心理学について概説する。</p> <p>臨床心理学および心理療法の歴史的背景と代表的理論の3大潮流について概観し、それらの共通点と相違点を踏まえた上で、主として、ユングの分析心理学を中心に、その理論と実践のエッセンス、具体的な問題理解の視点、研究・探究の視点について論じるとともに、他学派の心理療法の理論や関連領域の理論との共通点や相違点についてもとりあげて論じる。</p> <p>これらを通じ、分析心理学的アプローチの基本となる点を理解すること、および、分析心理学の理論をクリティカルに敷衍することで、心における普遍的問題と現代の問題とそのアプローチについて考え、理解を深めることを目的とする。</p> <p>また、心の問題は、人が生きるさまざまな分野・領域にかかわる。保健医療分野や学校教育分野をはじめ、主要5分野において、乳幼児期から老年期にわたって幅広くみられる様々な問題に関して、事例をとりあげつつ、問題の理解と支援の実際について具体的検討を通じて学ぶことを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床心理学および心理療法の歴史的背景と成り立ちについて理解し、代表的なアプローチ（理解と支援のための理論と方法）の特徴および相違点・共通点を理解する。 2) ユングの分析心理学の基本理論を理解することで、臨床心理学および心理療法における代表的理論の相違点・共通点を検討し、臨床心理学と心理療法の本質的理解を深める。 3) 心理療法の基本的姿勢と技法について理解する。 4) 発達期上の課題および心的問題（精神科的問題を含む）について理解する。 5) 具体的な事例について理解し、支援について考えることができる。 6) 主要5分野（保健医療、福祉、学校教育、司法・犯罪、産業・労働）における心理臨床とその意義、多職種連携・地域連携の重要性を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：臨床心理学とその成り立ち</p> <p>第3回：臨床心理学と心理療法：代表的理論の3大潮流をめぐって ：力動的アプローチ</p> <p>第4回：臨床心理学と心理療法：代表的理論の3大潮流をめぐって ：認知行動的アプローチ・人間学的アプローチ</p> <p>第5回：心の成長と心的体験の理解</p> <p>第6回：心の危機とその理解</p> <p>第7回：ユングにおける心の危機論： 中年期の問題・うつ病の理解と支援</p> <p>第8回：心の危機論 ：思春期の問題・不登校の理解と支援</p> <p>第9回：心の危機論 ：思春期の問題・いじめの理解と支援</p> <p>第10回：心の危機論 ：親子の問題（非行、虐待）の理解と支援</p>											
----- 心理学(特殊講義)(臨床心理学概論)(2)へ続く -----											

心理学(特殊講義)(臨床心理学概論)(2)

- 第1 1回：心の危機論の敷衍・主体の問題：強迫性障害の理解と支援
- 第1 2回：主体の問題：思春期妄想症・妄想型統合失調症の理解と支援
- 第1 3回：主体の問題：統合失調症の理解と支援
- 第1 4回：主体の問題：発達障害の理解と支援
- 第1 5回：期末試験/学習到達度の評価，心理療法と臨床心理学の本質・まとめ
- 第1 6回：フィードバック（方法は別途連絡します）

但し，学習の理解度に応じて，内容が変更される場合がある。

【履修要件】

講義で呈示された事例についての守秘義務に関する約束を守れること（オリエンテーションで説明します）。

【成績評価の方法・観点及び達成度】

- 【評価方法】1．毎回の授業終了時に提出する小レポート（30点）
- 2．年度末(授業の最終回頃)に行う筆記試験（70点）
- 【評価基準】上記の到達目標の観点から総合的に評価する。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

予習
・指示された参考資料を読んでおく。
・自ら積極的に関連する資料を収集し、問題意識をもって授業に臨むことが望ましい。

復習
・授業内容についての理解度を確認する。
・授業を通じて得た知識や疑問等をきっかけに、自ら積極的に関連する資料を収集し、理解を深めることが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

授業前後の時間、もしくは授業時の小レポートで、考えたことや疑問等を受け付ける。必要なフィードバックを行うことで、対話的に授業をすすめる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義)(心理学的支援法) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 准教授 田中 康裕 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		臨床心理学概論									
【授業の概要・目的】											
以下の3点についての知識を習得する。											
1. 臨床心理学の対象と方法、2. 心理臨床の理論と実践、3. 対象別にみた心理臨床の実際											
心理臨床における「対象」は単なるobjectではなく、subjectとして心理臨床それ自体を創造してきたものでもある。理論と実践が不可分である心理臨床の本性について学ぶ。											
【到達目標】											
精神疾患の分類も含めた臨床心理学、および心理臨床の実際に関する基礎的理解。											
【授業計画と内容】											
第1回：オリエンテーション / 第2回：臨床心理学の対象と方法(1) 精神障害の古典的分類 / 第3回：臨床心理学の対象と方法(2) 心理査定と初期面接1 / 第4回：臨床心理学の対象と方法(3) 心理査定と初期面接2 / 第5回：臨床心理学の対象と方法(4) 心理査定と初期面接3 / 第6回：心理臨床の理論と実践(1) フロイトと精神分析 / 第7回：心理臨床の理論と実践(2) ユングと分析心理学1 / 第8回：心理臨床の理論と実践(3) ユングと分析心理学2 / 第9回：心理臨床の理論と実践(4) ヒルマンと元型的心理学 / 第10回：対象別にみた心理臨床の実際(1) 神経症 / 第11回：対象別にみた心理臨床の実際(2) 精神病 / 第12回：対象別にみた心理臨床の実際(3) 人格障害 / 第13回：対象別にみた心理臨床の実際(4) 解離と発達障害 / 第14回：心理臨床家の資格と専門性 / 第15回：まとめ											
【履修要件】											
事例提示も含まれるため、守秘義務を守れること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
出席状況、小レポートを総合的に評価する。											
【教科書】											
使用しない											
----- 心理学(特殊講義)(心理学的支援法)(2)へ続く -----											

心理学(特殊講義)(心理学的支援法)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

紹介された文献等を参考にして、授業内容についての理解を深めた上で、小レポートを作成すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系 1 2

科目ナンバリング		U-LET28 37136 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義A) (知覚・認知心理学) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究所 教授 文学研究科		齋木 潤 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		心理学 (知覚・認知心理学)									
[授業の概要・目的]											
認知心理学は知覚、記憶、思考、意思決定などを含む広い分野であるが、本講義は、視覚による認識過程を主たる題材として、認知心理学の基本的な考え方、研究の方法論などを理解することを目指す。視覚認識に関する基礎的な知識を土台として、視覚認識における記憶、注意の役割に焦点を当てて解説する。											
[到達目標]											
視覚に関する科学的研究を主な題材として、主観現象の科学である認知心理学の背後にある基本的な考え方を理解する。基本的な事実の習得とともに、研究すべき問題の立て方、それに対するアプローチ、実験結果の評価の仕方、を理解する。											
[授業計画と内容]											
以下のトピックを取り上げる。各トピックにつき 2 - 3 回の講義を割り当てる。 第1回 イン트로ダクション 第2 - 4回 視覚システムの基礎 第5 - 6回 3次元構造の知覚 第7 - 8回 物体認識 第9 - 10回 視覚認知における記憶の機能 第11 - 12回 視覚認知における注意の機能 第13 - 14回 認知における特徴の統合											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
期末試験											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業で扱った内容について、他の解釈、他の可能性、発展研究など、自分自身で考えてみること。 (その他(オフィスアワー等))											
特になし オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系 1 3

科目ナンバリング		U-LET28 37137 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義B) (知覚・認知心理学) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		齋木 潤 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		心理学 (知覚・認知心理学)									
[授業の概要・目的]											
認知心理学は知覚、記憶、思考、意思決定、運動制御などを含む広い分野であるが、本講義では、視覚による認識過程を主たる題材として、認知心理学の基本的な考え方、研究の方法論などを理解することを目指す。視覚認識に関する基礎的な知識を土台として、探索行動を題材に取り上げ、知覚、意思決定、眼球運動の機能に焦点を当てて解説する。											
[到達目標]											
視覚に関する科学的研究を主な題材として、主観現象の科学である認知心理学の背後にある基本的な考え方を理解する。基本的な事実の習得とともに、研究すべき問題の立て方、それに対するアプローチ、実験結果の評価の仕方、を理解する。											
[授業計画と内容]											
以下のトピックを取り上げる。各トピックにつき2 - 3回の講義を割り当てる。											
第1回 イン트로ダクション 第2 - 4回 視覚システムの基礎 第5 - 6回 シーンの認知 第7 - 8回 探索行動における視覚の機能 第9 - 10回 視覚探索と眼球運動 第11 - 12回 探索行動における意思決定 第13 - 14回 探索行動における記憶の役割											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
期末試験。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 特になし											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業で扱った内容について、他の解釈、他の可能性、発展研究など、自分自身で考えてみること。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET28 37138 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) (神経・生理心理学) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		こころの未来研究センター 特定准教授 阿部 修士 文学研究科 基礎用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		心理学(特殊講義)									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では前頭葉機能、記憶、情動、社会的認知を中心として、脳と認知機能の関係について基礎的知見を解説する。脳損傷患者を対象とした神経心理学的手法を広く取り上げ、脳機能画像法についても講義を行う。エッセンスをできるだけ平易に講義することで、認知神経科学の基礎を幅広く身につけ、受講者がそれぞれの研究に活かせるようにすることを目的とする。なお各回の講義終盤では、海外の著名な研究者による講演を教材として視聴することで、発展的・建設的な思考能力の習得を目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>認知神経科学の基礎を身につけ、自身の研究に活かせるようにする。 認知神経科学の研究における発展的・建設的な思考能力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>初回にオリエンテーションを行う。2週目以降は以下のような内容について授業を行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 認知神経科学の研究手法：神経心理学による研究 3. 認知神経科学の研究手法：脳機能画像法による研究 4. 前頭葉機能：下位領域の区分 5. 前頭葉機能：機能の評価とこれまでの知見 6. 記憶の神経機構 7. 未来を展望する脳 8. 不快情動の神経基盤 9. 快情動の神経基盤 10. 報酬と意思決定 11. 好き嫌いの仕組み 12. 道徳的判断のメカニズム 13. デフォルトモード・ネットワーク 14. 講義全体のまとめ及びフィードバック <p>なお各講義の終盤には、取り扱うトピックに関連する英語のTED talks (http://www.ted.com/talks) を教材として用いる。TED talksでは世界的に著名な研究者による優れた講演が行われており、最新の研究成果・現在のトレンド・英語によるプレゼンテーションの方法など、研究を行うために必要な多くの知識とスキルを学ぶ貴重な機会を提供するものである。</p>											
心理学(特殊講義) (神経・生理心理学) (2)へ続く											

心理学(特殊講義)(神経・生理心理学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

【評価方法】

平常点評価(50%)及びレポート(50%)。
4回以上欠席した場合には単位を認めない。

【教科書】

平常点評価(50%)及びレポート(50%)。
4回以上欠席した場合には単位を認めない。

【参考書等】

(参考書)
必要に応じて資料を配布する。

【授業外学習(予習・復習)等】

初回のオリエンテーション時に、教材として使用するTED talk (<http://www.ted.com/talks>) についての紹介を行う。予習は必須ではないが、繰り返し視聴することによって、理解を深めることが望ましい。

【その他(オフィスアワー等)】

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 37138 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義)(神経・生理心理学) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学脳科学研究科 教授 櫻井 芳雄 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		神経・生理心理学の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>心を科学的に理解する上で、脳の理解は必要かつ不可欠である。本講義では、心理学的機能を担う脳の構造と機能について、特にその情報処理と可塑性に焦点を当て、基礎的事項から最新の研究成果まで広範に解説する。教科書的な体系に沿った解説ではなく、毎回テーマを設定し、研究の現状、解明された事実と未解決な問題、今後の展望等について、独自に作成した資料により解説する。実験や臨床例などの映像教材も多数用いる。</p>											
【到達目標】											
<p>下記の1～7全てを到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 脳の情報処理について実験事実に基づき正しく理解する。 2 脳の構造と機能に関する基本用語を理解する。 3 神経科学の実験方法を理解しデータの見方もわかる。 4 神経科学的研究の現状と将来性を理解する。 5 脳の可塑性と心の柔軟性の対応を理解する 6 脳の故障と心の疾患の対応を理解する。 7 脳に関する誤った定説や迷信を看破する。 											
【授業計画と内容】											
<p>下記のテーマで各回の講義を行う。()内は主な講義内容である。</p> <p>第1回 脳の情報処理の特性 (コンピュータとの違い、ニューロンの性能、神経回路網の構造、分散的・確率的処理)</p> <p>第2回 情報処理の基本単位 (ヘップの仮説、セル・アセンブリ、実験的検出法、心の特性との対応)</p> <p>第3回 情報処理の実態 (同期活動の検出、遺伝子改変、オプトジェネティクス、カルシウムイメージング、動物の訓練)</p> <p>第4回 神経情報の抽出と検証 (ブレイン・マシン・インタフェース、ポピュレーションベクトル、動物実験の現状、侵襲的方法の課題)</p> <p>第5回 神経活動の能動的変容 (非侵襲的方法、臨床応用の現状、脳活動の随意的変化、ニューロフィードバック、高齢脳の可塑性)</p> <p>第6回 神経活動の条件づけ (単一ニューロン活動のオペラント条件づけ、海馬ニューロン集団活動のオペラント条件づけ)</p> <p>第7回 可塑性による個性と復元 (脳構造と機能の個性、損傷の機能復元と個人差、高齢脳と発達脳の差)</p> <p>第8回 視覚情報処理と可塑性 (高次視覚野と認識、視覚アルファベット、視覚の可塑的変容、視覚と運動の相互作用)</p>											
----- 心理学(特殊講義)(神経・生理心理学)(2)へ続く -----											

心理学(特殊講義)(神経・生理心理学)(2)

- 第9回 記憶情報処理と高次機能 (記憶形成の部位、全体論と局在論、ニューロン活動の変化、シナプスの変化、超記憶と高次機能)
- 第10回 意識と自由意思 (意識のレベル、意識の存在証明、動物の意識、自由意志と自己概念)
- 第11回 脳機能の故障 (発達障害と自閉症、強迫神経症、脳内代謝レベル、うつ病、シナプス伝達物質、抗うつ薬)
- 第12回 統合失調症 (実態、社会的認知、生物学的背景、病変の局在論と全体論、介入の過誤)
- 第13回 脳機能への介入 (日常的な介入、薬物による介入、遺伝子神話、外科的介入、脳刺激の効用と限界)
- 第14回 神経神話 (典型的な神話、研究者の責任、脳活動イメージングの誤解、研究不正の背景、他)
- 第15回 期末試験
- 第16回 フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

- 【評価方法】 期末試験 (解答は論述式であり問題は選択できる)。
【評価基準】 講義内容の重要点を理解し説明できるかどうかを評価する。

[教科書]

使用しない
教科書は用いず、毎回独自に作成したスライドを用いて講義する。スライドのプリントアウトも配布する。

[参考書等]

(参考書)
櫻井芳雄 『脳と機械をつないでみたら - BMIから見えてきた』 (岩波書店)
講義の内容を理解しさらに考察するための参考図書を随時紹介する。
また上記の図書を講義前あるいは講義と並行して読むことを勧める。

[授業外学習(予習・復習)等]

【事前の準備】 あらかじめ神経科学の概論や入門講義を履修しておくことが望ましいが必須ではない。また事前に神経科学全体の教科書を読んでおく講義が理解しやすいが、やはり必須ではない。
【学習方法】 講義内容は復習を中心に学習することになる。配布された資料と講義中に紹介された参考図書を活用することを勧める。

心理学(特殊講義)(神経・生理心理学)(3)

(その他(オフィスアワー等))

非常勤講師のため質問は講義終了後に受けつける。積極的な質問を期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 17170 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学研究法 Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 齋木 潤 文学研究科 准教授 黒島 妃香 人間・環境学研究科 教授 船曳 康子 人間・環境学研究科 教授 月浦 崇 人間・環境学研究科 准教授 大倉 得史 こころの未来研究センター 特定講師 畑中 千紘 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時間	金4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		心理学研究法									
[授業の概要・目的]											
心理学を初めて学ぶ大学1回生、他の回生を対象として、心理学固有の方法論とその歴史的背景を幅広く学ぶとともに、それらの方法を使うための基本的なスキルの習得を目指す。観察法、面接法、質問紙法、実験法などの代表的な研究法を取り上げ、古典的な研究例のデモンストレーションを行うとともに、研究法の歴史などにも触れる。											
[到達目標]											
心理学の講義では、主として、心理学的な現象や事実を学ぶが、この授業では、それらの現象や事実を発見するために心理学が発展させてきた方法論の基礎を学ぶことを目指す。心理学を知識として学ぶだけでなく、将来自身で心理学の研究を目指す学生にとっては必須の科目である。											
[授業計画と内容]											
2コマを1単元として、基本的な研究法を実習やデモンストレーションを用いながら紹介する。											
第1回 イン트로ダクション 齋木(総人)											
第2-3回 質問紙法・テスト法 畑中(こころ)											
第4-5回 面接法 船曳(総人)											
第6-7回 観察法 板倉(文)											
第8-9回 実験1(認知) 齋木(総人)											
第10-11回 実験2(学習) 黒島(文)											
第12-13回 実験3(生理) 月浦(総人)											
第14回 まとめ											
* 全学共通科目のフィードバック期間中に授業のフィードバックを行う。											
各単元では、古典的な研究例のデモンストレーションを行うとともに、研究法の歴史などにも触れる。 各単元ごとにレポートを提出。											
----- 心理学研究法(2)へ続く -----											

心理学研究法(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

各單元ごとに提出するレポートによって評価する。レポートは、各單元の内容の理解、レポート課題の出来、期日までに提出しているかなどを総合的に評価する。6単元のレポートの評点の平均点を最終評価とする（未提出のレポートは0点と換算）。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

【授業外学習（予習・復習）等】

予習は特に必要ないが、レポートを作成するための作業が必要。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは担当教員ごとに、KULASIS及び授業内でアナウンスする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 27172 LJ46									
授業科目名 <英訳>	心理学概論 Psychology (Lectures)					担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 永田 素彦 人間・環境学研究科 教授 月浦 崇 人間・環境学研究科 教授 齋木 潤 情報学研究科 教授 熊田 孝恒 教育学研究科 教授 楠見 孝 教育学研究科 准教授 田中 康裕 教育学研究科 講師 梅村 高太郎 こころの未来研究センター 教授 内田 由紀子 医学研究科 特定准教授 佐藤 弥 総合生存学館 教授 積山 薫 霊長類研究所 准教授 足立 幾磨 高等教育研究開発推進センター 准教授 山田 剛史 高等研究院 准教授 山本 真也 文学研究科 確認用				
	配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期		2019・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	講義
題目	心理学概論										
[授業の概要・目的]											
<p>心理学は人の仕組みと働きを解明する学問である。本講義は、国家資格である公認心理師を目指す学生が、はじめて心理学を学ぶための科目である。その内容は、心理学のさまざまな研究分野において、心の探究がどのように進められてきたかという心理学の成り立ちと、心の基本的な仕組みと働きについて解説をする。特に人間の心の基礎的な側面に着目し、知覚、認知、学習、感情などの心の機能、およびこれら心の機能を実現する脳、ならびにその発達、社会や教育との関連をとりあげる。さらに、心の機能の個人差をもたらす人格、心の機能に関わる困難を心理学的に支援するための臨床や障害などのトピックを取り上げる。</p> <p>本講義は、京都大学・心の先端研究ユニット（京都大学心理学連合）に所属する教員が、それぞれの専門領域に基づいて概論講義を行う。</p>											
[到達目標]											
<p>1．心理学の成り立ちについて概説できる。</p> <p>2．人の心の基本的な仕組みおよび働きについて概説できる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>多様な観点から多様な方法論を駆使して展開されている現代の心理学研究の全体像を知るための概論科目である。各回では、その分野の心理学の成り立ちと、心の基本的な仕組みと働きについて解説をする。以下のスケジュールで、各担当教員が1回の講義をおこなう予定である。なお、順序は変更となることがある。</p> <p>1. 序論：心理学全体の成り立ちと方法、心全体の仕組みと働き 永田(総人)</p> <p>2. 知覚 齋木潤(総人)</p> <p>3. 認知1 熊田孝恒(情報学)</p> <p>4. 認知2 楠見孝(教育・認知)</p>											
心理学概論 (2)へ続く											

心理学概論 (2)

5. 感情 佐藤弥 (こころ)
 6. 神経・生理 月浦崇 (総人)
 7. 発達 積山薫 (総合生存学館)
 8. 社会・集団 内田由紀子 (こころ)
 9. 教育 山田剛史 (高等教育センター)
 10. 心の進化 足立幾磨 (霊長類研)
 11. 社会的知性 山本真也 (高等研究院)
 12. 臨床1 田中康裕 (教育)
 13. 臨床2 梅村高太郎 (教育)
 14. まとめ
 15. 試験
- フィードバック方法は別途，連絡します。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

期末試験 (筆記) 100%

[教科書]

京都大学心理学連合 『心理学概論』 (ナカニシヤ出版) ISBN:978-4-7795-0399-3

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習 (予習・復習) 等]

予習すべきこと

- ・ KULASIS上の授業資料，教科書の該当箇所あらかじめ読んでおくこと。

復習すべきこと

・ 授業では教科書を参照するが，時間の制約上，該当する章の全範囲を必ずしも扱うわけではない。取り扱われなかった領域については，自身で教科書を読んで理解すること。また教科書に含まれない最先端の内容等も盛り込まれる場合があるので，授業で理解できなかった部分や興味を持った部分については図書館等で関連書籍を探し，復習すること。

(その他 (オフィスアワー等))

各学部の心理学専修，心理学系に進学を希望し，公認心理師資格の受験資格を得ることを目指す学生は，1，2年生のあいだに本講義を履修することが望ましい。なお，シラバス記載の担当教員ならびにスケジュールには変更がありうる。その場合にはあらかじめ連絡する。

オフィスアワー実施の有無は，KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については，KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17202 LJ37									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(言語学)(講義Ⅰ) Linguistics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉田 豊 文学研究科 准教授 千田 俊太郎 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 教授 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目	言語学講義Ⅰ - - 言語学の研究分野の紹介、音声学、音韻論、形態論、歴史比較言語学を中心に										
【授業の概要・目的】											
<p>言語の使用は人間を特徴づける事項一つであるから，言語学の究極の目標は言語の分析を通して人間をより深く理解することにあるとも言える．この授業では言語学についての知識を持たない学生を対象にして，言語学の分野で行われている研究やそれによって得られた知見についての導入を行う．より具体的には，言語を研究するために必須の知識や研究方法について解説する．</p>											
【到達目標】											
<p>言語学の研究分野のうち，20世紀前半までに確立し継承されている研究分野とそこで行われている言語分析の方法について理解する．各研究分野で使われている概念や術語の内容についての知識を得ること．またそれらの分析方法や概念を，学生自身が使う言語や方言，学習中の言語に見られる言語現象に適用することができるようになる．</p>											
【授業計画と内容】											
<p>この講義では，人間の言語の特徴や言語研究の分野に関する一般的な解説を導入として，人間言語の主要な伝達媒体となる音声と，素材としての音声が各言語を構成する音の単位として用いられるあり方についての研究，無意味な音の単位を組み合わせた意味を持つ語に関する研究，最後に，使用される限り変化する人間言語の変化に見られる一般的性質について解説していく．ほぼ以下のような順序で授業は進められる予定である．なお今年度は吉田豊がすべての授業を担当する．</p> <p>1 - 2回：導入 3 - 6回：音声学 7 - 9回：音韻論 10 - 12回：歴史言語学 13 - 14回：まとめ，および予備 15回：授業で扱った問題の発展に向けてのフィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
筆記試験（60％）と不定期に行う小テスト（40％）により成績を決定する．											
----- 系共通科目(言語学)(講義Ⅰ)(2)へ続く -----											

系共通科目(言語学)(講義Ⅰ)(2)

[教科書]

授業時にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

特になし

[授業外学習(予習・復習)等]

予習は必要ないが、復習とくに授業の中で分からなかった事柄や、興味をもった事柄について自分なりに調べてみる事が大切である。

(その他(オフィスアワー等))

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17204 LJ37									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(言語学)(講義 I) Linguistics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉田 豊 文学研究科 准教授 千田 俊太郎 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 教授 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		言語学概論II - - 統語論, 談話文法, 意味論を中心に									
[授業の概要・目的]											
言語学の目標は, 言葉の分析を通して人間をより深く理解することにある。この授業では, 言語学の基礎的理論と方法を分かりやすく解説することによって, 受講者に言葉の世界の楽しさと奥深さを同時に体験してもらう。											
[到達目標]											
言語学の基本的な分野に関して, 以下のことを理解する。 1) どのような現象が問題となっているのか。 2) その問題に対してどのような理論仮説があり, その現象がどのように説明されるのか。 3) それらの理論仮説を検証するためにどのような方法があるか。											
[授業計画と内容]											
言葉を通して人間理解にいたる道程は実に多様である。この授業では現代言語学の主要領域をカバーし, 具体的で興味深い事例をあげながら解説する。中心的なトピックとして, 統語論, 談話文法, 意味論を対象にする。今年度は定延利之がすべての授業を担当する。 1. はじめに ~ 言語学のさまざまな立場を理解するために 2. 言語記号, 恣意性, 体系, 言語学の各分野 3. 談話, パラ言語と非言語, プロソディ, コミュニケーション行動, 時間 4. コミュニケーションと発話1 5. コミュニケーションと発話2 6. 構造主義言語学と「認知革命」 7. 「心」と状況1 8. 「心」と状況2 9. 文法化 10. 生成言語学と認知言語学1 11. 生成言語学と認知言語学2, 機能主義言語学 12. 言語類型論と社会言語学 13. 文法と文化 14. 文字と言語 15. まとめ											
----- 系共通科目(言語学)(講義 I)(2)へ続く -----											

系共通科目(言語学)(講義Ⅰ)(2)

【履修要件】

前期の言語学講義Ⅰを履修していることが望ましい。

【成績評価の方法・観点及び達成度】

筆記試験

【教科書】

授業時にプリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

いくつかの基本的現象に関しては、世界諸言語の言語データを分析する。提出を求めない場合でも授業時以外も言語データと向き合う必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17206 LJ37									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(言語学)(講義II) Linguistics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉田 豊 文学研究科 准教授 千田 俊太郎 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 教授 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		言語学の歴史：古代世界から20世紀前半まで									
【授業の概要・目的】											
言語の研究は長い歴史を有しているが、言語学という科目は高校までの教科に存在しないためになじみの薄い研究分野のように思われている。この講義では、言語学についての予備知識がない学生を対象にして、古代から20世紀までの言語研究の歴史を概観することによって、今日の言語学の研究方法や、そこで用いられる概念・用語の成立の背景について論じる。											
【到達目標】											
過去2,000年以上にわたる言語研究の流れの概要が把握され、現在使われている言語学の述語や概念の成立の事情が理解できるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下のテーマについて、言語学の歴史の流れに沿って、順次概説していく。なお今年度は吉田豊がすべての授業を担当する。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入（文字の成立など言語学以前の言語研究）（第1週） 2. 古代世界の言語研究（第2～4週） 3. 現代言語学の礎となった19世紀の比較言語学（第5～8週） 4. 構造主義の言語学（第9～13週） 5. まとめ、予備（第14週） 6. 授業で扱った問題の発展に向けてのフィードバック（第15週） 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
筆記試験（75%）と不定期に行う小テスト（25%）を勘案する。											
【教科書】											
授業中にプリントを配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する。											
【授業外学習（予習・復習）等】											
予習は必要ないが、講義で配布された資料や言及された本に目を通すなどして、復習をしなければ講義内容を完全に把握することは難しい。											
（その他（オフィスアワー等））											
授業の後に、相談を受け付ける。それ以外でも適宜面談の機会を持つが、メールなどで事前にアポイントメントを取ることが望ましい。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET29 17208 LJ37									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(言語学)(講義II) Linguistics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉田 豊 文学研究科 准教授 千田 俊太郎 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 教授 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		20世紀後半からの言語学の歴史									
[授業の概要・目的]											
20世紀後半からの現代までの言語研究の歴史を概観することによって、今日までの言語研究の発展やその背景について考えるとともに、言語学の基本的な概念や研究法を学ぶことを目的とする。本年は類型論(言語普遍)を中心的に取り上げて、概説する。											
[到達目標]											
さまざまな言語における言語事実を基礎知識として身につけ、言語の在り方についての理解を深める。この、言語事実の多様性を前提として、その背後に存在する通言語的な規則性が見出されてきた歴史を把握する。											
[授業計画と内容]											
20世紀後半以降、言語研究に大きな影響を及ぼした個人・組織を取り上げ、その成果について解説する。今年度後期は千田俊太郎がすべての授業を受け持つ。解説は、時代別ではなく、以下の分野別に行ってゆく。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに: 概観 2. 古典類型論とその問題点 3. チョムスキー 4. グリーンバーグと類型論1: 言語普遍 5. グリーンバーグと類型論2: 形態的類型論、有標性と階層 6. 音韻的類型論 7. 語順 8. 主要部、階層構造 9. 文法関係 10. 言語相対論 11. 二重分節 12. 最適性理論 13. メタファー研究 14. 意味の言語普遍 15. 試験 											
[履修要件]											
前期の言語学講義2を履修していることが望ましい。											
-----系共通科目(言語学)(講義II)(2)へ続く-----											

系共通科目(言語学)(講義II)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

積極的な授業参加(30%)、定期試験(70%)

[教科書]

プリント配布

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

研究史をみてゆくため、挙げられる用語や人名は多目である。プリントを参考に復習していただきたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは設けない。面談が必要な学生は授業後に予約をとること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		定延 利之 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本語と日本語コミュニケーションにおける「キャラ」									
【授業の概要・目的】											
この講義では、日本語と日本語コミュニケーションの観察を通して、近年の日本で生まれた新しい概念発想「キャラ」を学ぶ。											
【到達目標】											
この講義の到達目標は、従来の語用論と文法が前提にしてきた目的論的な発話観ならびに均一的な話者観を批判的に検討するための基礎的な知見を得ることである。											
【授業計画と内容】											
第1回 「キャラ」「キャラクタ」論の概観1											
第2回 「キャラ」「キャラクタ」論の概観2											
第3回 日本語コミュニケーションにおける「キャラ(クタ)」1											
第4回 日本語コミュニケーションにおける「キャラ(クタ)」2											
第5回 伝統的な人間観の重要性1											
第6回 伝統的な人間観の重要性2											
第7回 タブーとカミングアウト1											
第8回 タブーとカミングアウト2											
第9回 まとめ：キャラと語用論											
第10回 キャラに関わる2種類の行動											
第11回 キャラの発動1											
第12回 キャラの発動2											
第13回 キャラの付与											
第14回 まとめ：キャラと文法											
第15回 結論											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポート											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

【授業外学習（予習・復習）等】

復習を怠らないでほしい。

（その他（オフィスアワー等））

質問は随時受け付けますが、メールなどでアポイントメントをとってもらえば面談にも応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 千田 俊太郎 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		トク・ピシン研究									
【授業の概要・目的】											
多民族多言語地域として知られるオセアニアの言語のなかでピジン・クレオール語として代表的なトク・ピシンをとりあげる。オセアニアの、常に多民族が接触する社会状況、その中ではくくまれた文化も合わせて紹介する。トク・ピシンの学習を通じてピジン・クレオールの言語事実に触れさせ、新たな言語の出現とリングア・フランカの在り方についての理解を深める。											
【到達目標】											
この授業の到達目標は、トク・ピシンの骨組みとなる基本語彙と文法構造を把握し、またそのことを通じてピジン・クレオールとは何かについて理解することである。											
【授業計画と内容】											
1. はじめに 2-3. 音素（語彙供給言語との比較） 4. スタイルと変種 5. 関係節 6. 引用 7-9. 語彙・表現の特徴(移動、親族、その他) 10-11. 語形成(形態素認定の問題) 12-14. オセアニアのピジン・クレオールと言語社会 15. まとめ											
【履修要件】											
前期の「トク・ピシン研究」を受講済みであることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
積極的な授業参加(30%)とレポート(70%)により成績をつける。											
【教科書】											
使用しない プリントを配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する Mihalic, F. 1983 The Jacaranda Dictionary and Grammar of Melanesian Pidgin. Milton: The Jacaranda Press. Verhaar, J. W. M. 1996 Towards a Reference Grammar of Tok Pisin. Honolulu: University of Hawai'i Press. Dutton, Tom and Thomas, Dicks 1985 A New Course in Tok Pisin (New Guinea Pidgin). Canberra:											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

Australian National University.

Smith, Geoff P. 2002 Growing up with Tok Pisin. Battlebridge Publications.

[授業外学習（予習・復習）等]

復習時には配布資料を見返すだけでなく、研究書や論文を手に取り理解を深めてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しませんが、アポイントメントをとつて下されば質問・相談にのります。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系 2 4

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)									
[授業の概要・目的]											
紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 											
[授業計画と内容]											
この授業では、2週間に一つの讃歌のペースで読み進める。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1 (2週間) 2. Hymn 2 (2週間) 3. Hymn 3 (2週間) 4. Hymn 4 (2週間) 5. Hymn 5 (2週間) 6. Hymn 6 (2週間) 7. Hymn 7 (2週間) 8. フィードバックなど (1週間) 											
[履修要件]											
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定准教授 藤原 敬介 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		チベット・ビルマ諸語概説									
【授業の概要・目的】											
チベット・ビルマ諸語は、中国から東南アジア、南アジア地域にかけて広範に分布する一大言語群です。本講義では、チベット・ビルマ系諸言語にみられるさまざまな特徴や言語学的な問題について、具体的な言語事実をとおして学習していきます。特に、講師が専門とするルイ語群とよばれる言語群の事例が中心となります。前期は音声学・音韻論、形態論を中心にとりあげます。											
【到達目標】											
チベット・ビルマ系諸言語にはどのような特徴があるかを把握し、自分の母語や専門とする言語あるいは関心がある言語とどのような点で共通し、どのような点で異なっているかを説明できるようになることを目標とします。											
【授業計画と内容】											
1～2: チベット・ビルマ系諸言語の系統と分布 3～5: チベット・ビルマ系諸言語の音声と音韻（子音、母音、声調） 6～9: チベット・ビルマ系諸言語の名詞形態論（代名詞、指示詞、数詞、類別詞、格、関係名詞） 10～14: チベット・ビルマ系諸言語の動詞形態論（自動詞と他動詞、人称接辞、方向接辞、名詞化） 15: まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（50%）とレポート（50%）によって評価します。平常点は、毎回の授業への参加度を考慮して評価します。レポートは、講義内容と関連のあるテーマについて、内容（講義内容との関連性をどの程度うまく説明しているか）と体裁（レポートの形式、引用の仕方、参考文献の書式）がととのったものをたかく評価します。											
【教科書】											
使用しない 適宜プリントを配布します。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する Graham Thurgood and Randy J. LaPolla eds. 2017. The Sino-Tibetan Languages, Second edition. London and New York: Routledge.											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

Randy J. LaPolla ed. 2018. Sino-Tibetan Linguistics. London and New York: Routledge.
George van Driem. 2001. Languages of the Himalayas: an ethnolinguistic handbook of the greater Himalayan region. Leiden: Brill
Paul K. Benedict. 1972. Sino-Tibetan: a conspectus. Cambridge: Cambridge University Press.
James A. Matisoff. 2003. Handbook of Proto-Tibeto-Burman: system and philosophy of Sino-Tibetan reconstruction. Berkeley: University of California Press.

(関連URL)

<http://stedt.berkeley.edu/~stedt/cgi/rootcanal.pl>(Sino-Tibetan Etymological Dictionary and Thesaurus)

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に紹介する本や論文に興味・関心に応じてよんでみてください。

(その他(オフィスアワー等))

受講生の興味・関心、また授業の進度によって、内容が変更されることがあります。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定准教授 藤原 敬介 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		チベット・ビルマ諸語概説									
【授業の概要・目的】											
チベット・ビルマ諸語は、中国から東南アジア、南アジア地域にかけて広範に分布する一大言語群です。本講義では、チベット・ビルマ系諸言語にみられるさまざまな特徴や言語学的な問題について、具体的な言語事実をとおして学習していきます。特に、講師が専門とするルイ語群とよばれる言語群の事例が中心となります。後期は統語論、意味論、歴史言語学、文字論を中心にとりあげます。											
【到達目標】											
チベット・ビルマ系諸言語にはどのような特徴があるかを把握し、自分の母語や専門とする言語あるいは関心がある言語とどのような点で共通し、どのような点で異なっているかを説明できるようになることを目標とします。											
【授業計画と内容】											
1～7: チベット・ビルマ系諸言語の統語論（基本語順、動詞文と名詞文、否定、疑問、態、使役、受身、中動、適用、動詞連続、名詞修飾表現、「内的」対「外的」、複文、条件文、証拠性、相関関係文、かかりむすび、インバース） 8～10: チベット・ビルマ系諸言語の意味論（地域意味論、身体部位と心理動詞、動植物語彙、右と左、色彩語彙） 11～13: チベット・ビルマ系諸言語の歴史言語学（主要な音変化、特徴的な音変化、借用） 14: チベット・ビルマ系諸言語の文字 15: まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（50％）とレポート（50％）によって評価します。平常点は、毎回の授業への参加度を考慮して評価します。レポートは、講義内容と関連のあるテーマについて、内容（講義内容との関連性をどの程度うまく説明しているか）と体裁（レポートの形式、引用の仕方、参考文献の書式）がととのったものをたかく評価します。											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
適宜プリントを配布します。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

Graham Thurgood and Randy J. LaPolla eds. 2017. The Sino-Tibetan Languages, Second edition. London and New York: Routledge.

Randy J. LaPolla ed. 2018. Sino-Tibetan Linguistics. London and New York: Routledge.

George van Driem. 2001. Languages of the Himalayas: an ethnolinguistic handbook of the greater Himalayan region. Leiden: Brill

Paul K. Benedict. 1972. Sino-Tibetan: a conspectus. Cambridge: Cambridge University Press.

James A. Matisoff. 2003. Handbook of Proto-Tibeto-Burman: system and philosophy of Sino-Tibetan reconstruction. Berkeley: University of California Press.

(関連URL)

<http://stedt.berkeley.edu/~stedt-cgi/rootcanal.pl>(Sino-Tibetan Etymological Dictionary and Thesaurus)

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に紹介する本や論文を興味・関心に応じてよんでみてください。

(その他(オフィスアワー等))

受講生の興味・関心、また授業の進度によって、内容が変更されることがあります。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 荻原 裕敏 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		コータン語文献から見る文献言語研究									
【授業の概要・目的】											
<p>大量の写本断片が中国・新疆ウイグル自治区のコータン及び敦煌から発見されているコータン語は、中期イラン諸語に属する文献言語で、古期コータン語・後期コータン語という二つの段階に大きく分類される。5～11世紀頃と推定されるコータン語文献は宗教文献と非宗教文献に大別され、宗教文献は主にサンスクリットに基づいた仏教文献であるが、非宗教文献には契約文書や手紙・会話集なども含まれている。今回の講義では、研究史並びに文法を概観した後、古期コータン語・後期コータン語で書かれた代表的なテキストの講読を通して、出土文献資料を利用した文献言語研究の方法論やその可能性について解説する。</p>											
【到達目標】											
文字とその背後にある言語体系との関係や文献資料を通じた言語研究の方法論について理解し、文献言語研究に取り組む能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。</p>											
<p>1 導入【1週】 コータン語文献及び研究史の紹介</p>											
<p>2 コータン語の基礎【4週】 南トルキスタン・ブラーフミー文字写本 コータン語の音韻・文法 古期コータン語・後期コータン語</p>											
<p>3 出土文献資料による文献言語研究の方法論【9週】 出土文献資料の扱い方 コータン語文献講読 出土文献解読による言語体系の解明とその可能性 出土文献資料に反映される文化と社会</p>											
<p>4 フィードバック【1週】 期末レポート フィードバック</p>											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

期末レポート (70%)

平常点(小レポート) (30%)

【教科書】

ハンドアウトを配布する。

【参考書等】

(参考書)

Ruediger Schmitt (ed.) 『Compendium Linguarum Iranicarum』 (Wiesbaden: Reichert, 1989)

Gernot Windfuhr (ed.) 『The Iranian Languages』 (London: Routledge, 2009)

H. W. Bailey 『Dictionary of Khotan Saka』 (Cambridge: CUP, 1979)

その他、授業中に紹介する。

【授業外学習(予習・復習)等】

授業中に紹介する参考文献を自主的に学習すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		名古屋外国語大学 外国語学部 教授 文学研究科		上田 功 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		音韻論研究									
[授業の概要・目的]											
現代の音韻理論の発展を、主として表示に関する諸問題を通して概観する。特に基底表示のあり方をめぐって、Chomsky and Halle (1968)による「古典的な」モデルが説明できなかった問題点が、素性階層理論や素性不完全指定理論によってどのように修正されてきたかを考察し、最後に最適性理論が何故パラダイムの転換とまで言われるかを議論する。自然言語のみならず、獲得や方言のデータを異なった理論的枠組で分析することにより、理論の発展が理解できるように講義を進める。受講者には授業中の議論に積極的に参加することを求める。											
[到達目標]											
事象を客観的に観察して、背後に潜む規則性を発見し、そして一般化をおこなう能力、さらに複数の考え方があがる場合、どれが合理的であるかを論理的に考える能力、これらを言語事象を分析することによって訓練する。											
[授業計画と内容]											
データを分析しながら、その理論的な問題点を全員で議論しながら進める。具体的な項目は次の通りである。 1回目：イントロ 2回目：構造主義音素論 3回目：自然音韻論 1 4回目：自然音韻論 2 5回目：派生時代の制約 6回目：素性階層理論 1 7回目：素性階層理論 2 8回目：素性階層理論 3 9回目：素性不完全指定理論 1 10回目：素性不完全指定理論 2 11回目：素性不完全指定理論と語彙拡散 12回目：最適性理論 1 13回目：最適性理論 2 14回目：最適性理論 3 15回目：まとめと展望											
[履修要件]											
調音音声学の基礎知識が必要である。また言語学全般についても、概論程度の知識があることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業中の議論への積極的な参加等の平常点と、期末のレポートにより、総合的に評価する。											
[教科書]											
使用しない 毎回ハンドアウトを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
指示された予習、および復習が必要。なお授業への出席は不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37										
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 大学院言語文化研究科 教授 文学研究科			宮本 陽一 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語	
題目		統語論研究										
【授業の概要・目的】												
統語理論のゴールは、人間の持つ言語能力の研究を通して人間の心（mind）を理解することにある。この1つの試みとして生成文法理論がある。本講義では、生成文法理論において広く議論されている英語の疑問文（移動現象）に注目しながら、生成文法理論の考え方を学んでいく。												
【到達目標】												
<p>(1) 生成文法理論の基本的な考え方が理解できるようになる。</p> <p>(2) 疑問文に関する理論発展が理解できるようになる。</p> <p>(3) 樹形図、ブラケット等を用いて言語（特に英語と日本語）の基本的な文の構造が表現できるようになる。</p> <p>(4) 生成文法理論の枠組みにおいて日英語の統語的な違いが理解できるようになる。</p>												
【授業計画と内容】												
<p>以下の予定で講義を進める。但し、講義の進み具合により、多少の変更はあり得る。</p> <p>第1回：オリエンテーションならびに文の構造</p> <p>第2回：平叙文の構造</p> <p>第3回：疑問文の構造</p> <p>第4回 - 第6回：疑問文にかかる制約</p> <p>第7回：格</p> <p>第8回 - 第11回：障壁理論</p> <p>第12回：相対最小性</p> <p>第13回：ミニマリストプログラム</p> <p>第14回 - 第15回：日英語比較</p>												
【履修要件】												
言語学概論程度の知識があることが望ましい。												
【成績評価の方法・観点及び達成度】												
課題と期末レポートの成績を総合的に評価する。授業の内容を踏まえ、独創的な視点のもと、必要なデータ収集・分析を行った期末レポートを高く評価する。												
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----												

言語学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

ハンドアウトを配布する場合もあるが、授業は基本的に板書で進める。

[参考書等]

(参考書)

宮本陽一 『生成文法の展開：「移動現象」を通して』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-288-7

[授業外学習（予習・復習）等]

予習・復習を必ず行うこと。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 平子 達也 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本語諸方言の記述的研究と歴史的研究									
[授業の概要・目的]											
この講義では、主に日本語諸方言（文献資料に反映されたものも含む）の音韻・アクセントに関するいくつかのトピックを取り上げ、記述研究における通時的視点の必要性や、歴史研究と言語理論の関係など、言語研究における共時論と通時論の関係について考える。また、急速に標準語化が進む現状において、言語（方言）の記述研究と歴史研究はどのようにあるべきかという問題についても考えたい。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語研究における共時論と通時論を峻別した上で、それらの関係について考えることができる。 ・ 自分が対象としている、あるいは、関心を持っている特定の言語や言語現象を例にして、共時態と通時相のズレや関係性について考えたり、議論したりすることができる。 											
[授業計画と内容]											
<p>全 15 コマの授業時間で、以下の各項目について扱う予定である（あくまで予定）。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【 】で指示したコマ数相当の時間を充てる。各項目の講義の順序・内容は固定したのではなく、講義担当者の方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、適切に決める。</p> <p>――</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本語諸方言を対象とした記述的研究と歴史的研究【1コマ】 （研究史と周辺分野） 2 上代日本語の母音体系【2-3コマ】 （音価推定の手続きと音韻論的解釈，音韻論的解釈と歴史変化） 3 出雲・隠岐方言の音声・音韻【3-4コマ】 （音声記述と音韻論的解釈，「標準語化」と伝統方言の記述の難しさ） 4 愛知尾張方言の音声・音韻【1-2コマ】 （借用語音韻論と共時的記述と歴史研究） 5 平安時代語のアクセント【2-3コマ】 （声点資料と音韻論的解釈，音韻論的解釈と歴史変化） 6 現代日本語諸方言のアクセント【4-5コマ】 （アクセントだけの記述は可能か，分節音とアクセント，句音調とアクセント） 											
―― 言語学(特殊講義) (2)へ続く											

言語学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特に条件はありませんが、言語学概論程度の知識があることを前提にお話しするつもりです。言語学や英語学・国語学など各国語学について学んだことがない方で受講される方は、相応の準備をしてください。

【成績評価の方法・観点及び達成度】

- ・平常点（授業内での発言など）：20点
- ・レポート：80点

【レポートのテーマと評価】

言語研究における共時論と通時論の関係について、自身の専門とする言語や現象、自分の興味・関心がある言語や現象を例にとり、自由に論じていただく。レポートは、到達目標の達成度に基づいて評価する。

なるべく全回出席すること。特に規定はないが、欠席が目立つ場合（概ね5コマ以上の欠席）は単位を認めない。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

予習は特に必要ないが、歴史言語学関係の用語や概念について整理しておくといい。

（その他（オフィスアワー等））

9月3, 4, 5, 6日に開講の予定。詳細については、後日連絡があると思います。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 千田 俊太郎 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		トク・ピシン研究									
【授業の概要・目的】											
多民族多言語地域として知られるオセアニアの言語のなかでピジン・クレオール語として代表的なトク・ピシンをとりあげる。オセアニアの、常に多民族が接触する社会状況、その中ではくくまれた文化も合わせて紹介する。トク・ピシンの学習を通じてピジン・クレオールの言語事実に触れさせ、新たな言語の出現とリングア・フランカの在り方についての理解を深める。											
【到達目標】											
この授業の到達目標は、トク・ピシンの骨組みとなる基本語彙と文法構造を把握し、またそのことを通じてピジン・クレオールとは何かについて理解することである。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 代名詞 3. 「屈折」 4. 否定、命令 5. 時制 6. 助動詞laik, save 7. 助動詞ken, inap, mas 8. 接續詞1 9. 前置詞olsem, wantaim 10. 接續詞2 11. 程度表現 12. 疑問 13. 数表現 14. 品詞 15. まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
積極的な授業参加(30%)とレポート(70%)により成績をつける。											
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----											

言語学(特殊講義) (2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

Mihalic, F. 1983 The Jacaranda Dictionary and Grammar of Melanesian Pidgin. Milton: The Jacaranda Press.

Verhaar, J. W. M. 1996 Towards a Reference Grammar of Tok Pisin. Honolulu: University of Hawai'i Press.

Dutton, Tom and Thomas, Dicks 1985 A New Course in Tok Pisin (New Guinea Pidgin). Canberra: Australian National University.

Smith, Geoff P. 2002 Growing up with Tok Pisin. Battlebridge Publications.

[授業外学習(予習・復習)等]

復習時には配布資料を見返すだけでなく、研究書や論文を手に取り理解を深めてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に設定しませんが、アポイントメントをとつて下されば質問・相談にのります。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		定延 利之 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本語話しことばの文法									
【授業の概要・目的】											
この講義では、現代日本語（共通語）の話しことばの規則性の観察を通して、音声言語の基本的な概念と原理を学ぶ。											
【到達目標】											
この講義の到達目標は、日本語の文と発話行為の関係を態度・会話・対人関係の3面から包括的な形で理解すること、そして、話しことば研究の基礎となるコミュニケーションの原理について基礎的な知識を得ることである。											
【授業計画と内容】											
第1回 はじめに～話しことばとは？ 第2回 きもちの文法 第3回 発話の単位1 第4回 発話の単位2 第5回 話しことばと語調・語呂 第6回 非流ちょう発話の規則性 第7回 コミュニケーションの原理1 第8回 コミュニケーションの原理2 第9回 コミュニケーションの原理3 第10回 文法と状況 第11回 修飾と同格 第12回 体験と知識 1 第13回 体験と知識2 第14回 「面白い話」と民族音声学 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポート											
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----											

言語学(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

復習を怠らないでほしい。

(その他(オフィスアワー等))

質問は随時受け付けますが、メールなどでアポイントメントをとってもらえば面談にも応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪学院大学 情報学部 准教授 笹間 史子 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		調音音声学									
【授業の概要・目的】											
世界の言語の大半は音声を媒体としており、音声学の知識は言語記述に欠かせない。一般に音声の記述にはIPA (International Phonetic Alphabet, 国際音声記号) が用いられる。本演習は、実習をとおしてIPAに習熟することを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ IPAの発音を身につける。 ・ 音声を発する際に、音声器官のどこで何が起きているのか内省できるようになる。 ・ IPAを用いて音声表記ができるようになる。 ・ IPAの発音・聞き取りの習得をとおして、さまざまな言語音の記述をおこなうための基礎をつくる。 											
【授業計画と内容】											
音声器官、気流、発声について説明したのち、IPAの発音・聞き取り練習をおこなう。また、受講生に各自の学習言語からの例を持ちよってもらい、その発音・表記について皆で検討する。											
第1回 イントロダクション、音声器官のしくみ											
第2回 気流と発声											
第3回 破裂音											
第4回 鼻音、ふるえ音、はじき音											
第5回 摩擦音 【小テスト】											
第6回 摩擦音											
第7回 接近音、その他の子音											
第8回 非肺気流による子音											
第9回 非肺気流による子音 【小テスト】											
第10回 子音のまとめ、表記練習											
第11回 第一次基本母音											
第12回 第二次基本母音、その他の母音											
第13回 母音のまとめ、表記練習 【小テスト】											
第14回 総復習と発音テスト											
第15回 総復習と発音テスト											
【履修要件】											
特に要件は設けないが、言語学概論等の授業で音声学の基礎を学んでいることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
以下の合計で評価する。											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 平常点 (20点、発表を含む) ・ 小テスト (3回の聞き取りテスト、各10点) 											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											

言語学(演習)(2)

- ・発音テスト(40点)
- ・レポート(10点)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で学んだ音の発音・表記を確認しておくこと。
授業中にできるようにならなかった発音については各自で練習し、必要ならば次回以降の授業時(授業の前後)に担当者に確認すること。
授業で学んだことにもとづき、自らが学習する言語の音声をあらためてよく観察するとともに、観察結果を授業に持ち寄ること。

(その他(オフィスアワー等))

実習であるので、休まないこと。
休んだ回の内容については、書籍、CDやネット上の音声などを活用して確認しておくこと。
授業中は他の受講生の発音にもよく耳を傾けること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 文学研究科		パリハワダナ ルチヲ 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		「魅力的な日本語」・「難しい日本語」を題材とした日本語学・日本語教育的探究									
【授業の概要・目的】											
日本語学習者の「日本語学習の目的」として「日本語そのものへの興味」が常に上位にランキングされる。その理由は果たして何か。学習者が日本語を通して体験する世界とは何か。本授業では、本学で学ぶ日本語・日本文化研修留学生（以下、日研生）と共に、「魅力的な日本語」あるいは習得が困難な日本語の諸要素を選定し、それらを日研生の母語と対照しながら、多角的に分析することを通して、外的視点から日本語を考察する。日本人学生・日研生を含む混在グループで、誤用分析、用法分析、教科書分析を行いつつ、日本語の魅力、特徴に迫る。											
【到達目標】											
本授業の到達目標は、 (1) 日本語に対する相対的な見方を形成しつつ、その背景にある社会文化的な諸要素についての理解力の向上を図ること、 (2) 日本語教育の基礎を学びながら、選定した学習項目・用法を基にその基礎的応用力を習得することである。											
【授業計画と内容】											
以下の通りに進めていく予定であるが、履修者の興味や背景に応じて変更する場合もある。 第1回 日本語教育の現状、初級日本語学習者が経験する世界の疑似体験 第2回 様々な教授法 第3回～第5回 「日本語を学ぶきっかけ」となる学習項目（擬音語・擬態語、漢字、位相、日本語の音声など）を対象とした分析 第6回～第7回 同上を対象とした教科書分析、指導案作成 第8回 グループ別中間発表 第9回～第11回 学習困難な日本語（「は」と「が」の使い分け、主語の省略、配慮表現など）を対象とした誤用分析、用法分析 第12回～第13回 同上を対象とした教科書分析、指導案作成 第14回 グループ別期末発表 第15回 日本語教師に求められるもの											
【履修要件】											
特になし											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											

言語学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

以下の通りに評価する。

授業活動への参加度合：30%

中間・期末発表：各30%

期末レポート：40%

なお、5回以上欠席した場合には単位認定を行わない。

[教科書]

使用しない

授業中にプリントを配付する。

[参考書等]

(参考書)

白川博之監修 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(スリーエーネットワーク)

ISBN:ISBN:ISBN4-88319-201-6

川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(上)』(ひつじ書房)

ISBN:ISBN:ISBN4-89476-251-X

川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(下)』(ひつじ書房)

ISBN: ISBN:ISBN4-89476-252-8

その他適宜授業中に提示する。

[授業外学習(予習・復習)等]

グループ活動を遂行する上で事前準備・授業外の共同学習が必要となる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

E-mailアドレス：palihawadana.ruchira.8n@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉田 豊 文学研究科 准教授 千田 俊太郎 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 教授 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		歴史言語学									
[授業の概要・目的]											
本演習では版を重ね定評のあるCrowleyとBowernによるAn Introduction to Historical Linguistics,OUPの2010年に出版されたFourth editionをテキストとして使用し,言語の変化についてのオーソドックスな見方と伝統的研究方法を,実例と練習問題を通じて習得することを目的とする。											
[到達目標]											
世界の諸言語に見られる言語変化の共通した特徴にはどのようなものがあるのか,そのような性質を利用して過去の言語を再建する方法はどのようなものであるかなどについて,実例や練習問題を通じて理解し,受講者自身が関心を持つ言語についての歴史研究を行う指針が得られる事が到達目標である。											
[授業計画と内容]											
授業では各回,学部の学生と大学院の学生がペアになり,割りあてられた部分について,ハンドアウトを使って内容を解説するとともに,問題となる事項について討議する。なお今年度は吉田豊がすべての授業を担当する。 第1回:教材紹介,授業の進め方 第2回:Introduction 第3回:Types of Sound Change 第4回:Expressing Sound Changes 第5回:Phonetic and Phonemic Change 第6回:Comparative Method (1) 第7回:Determining Relatedness 第8回:Internal Reconstruction 第9回:Comparative Method (2) 第10回:Morphological Change 第11回:Semantic and Lexical Change 第12回:Syntactic Change 第13回:Language Contact 第14回:議論まとめと予備 第15回:フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
以下の合計による:(1)授業での発表(30%),(2)討論への積極的な参加(10%),(3)期末レポート(60%)。											
----- 言語学(演習) (2)へ続く -----											

言語学(演習) (2)

[教科書]

T. Crowley & C. Bower 『 An Introduction to Historical Linguistics 』 (Oxford University Press) ISBN: 970-0-19-536554-2

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習 (予習・復習) 等]

受け持ち部分以外も事前に目を通しておき，授業中の討議や質問を通じて分からない部分を解決することが望まれる。

(その他 (オフィスアワー等))

研究室でも質問や相談を受け付けます。事前に連絡して時間の調整を行ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		吉田 豊 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		言語変化									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では2015年に出版されたBybeeによるLanguage Change, CUPをテキストとして使用する。本書は言語の使用の点から言語の変化の原因や変化のプロセス、変化の普遍性について解説した教科書で、伝統的な歴史言語学とは異なる視点で書かれている。言語の用法の観点から見た言語変化についての研究方法について理解を深める事が目的である。</p>											
【到達目標】											
<p>コーパスの利用など、歴史言語学に関する伝統的かつオーソドックスな研究方法とは若干異なる最新のアプローチについての知識を得ること、そしてその知識を受講者自身が関心を持つ言語についての歴史研究を行う際に適用できるようになる事が到達目標である。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業では各回、学部の学生と大学院の学生がペアになり、割りあてられた部分について、ハンドアウトを使って内容を解説するとともに、問題となる事項について討議する。なお今年度は吉田豊がすべての授業を担当する。</p> <p>第1回：教材紹介，授業の進め方 第2回：The Study of Language Change 第3回：Sound Change 第4回：Sound Change and Phonological Change in a Wider Perspective 第5回：The Interaction of Sound Change with Grammar 第6回：Analogical Change 第7回：Grammaticalization: Process and Mechanism 第8回：Common Path of Grammaticalization 第9回：Syntactic Change: The Development and Change of Constructions 第10回：Lexical Change: How Languages Get New Words and How Words Change Their Meaning 第11回：Comparison, Reconstruction, and Typology 第12回：Sources of Language Change: Internal and External Factors 第13-14回：全体のまとめと予備 第15回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 言語学(演習) (2)へ続く -----											

言語学(演習) (2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

以下の合計による：(1) 授業での発表 (30%) , (2) 討論への積極的な参加 (10%) , (3) 期末レポート (60%) 。

[教科書]

J. Bybee 『Language Change』 (Cambridge University Press) ISBN:978-1-107-65582-9
担当教員が作成した教材の日本語訳も使う。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習 (予習・復習) 等]

受け持ち部分以外も事前に目を通しておき , 授業中の討議や質問を通じて分からない部分を解決することが望まれる。

(その他 (オフィスアワー等))

研究室でも質問や相談を受け付けます。事前に連絡して時間の調整を行ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 47245 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(卒論演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉田 豊 文学研究科 准教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 確認用			
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	卒論演習	使用 言語	日本語
題目		言語学の諸問題									
【授業の概要・目的】											
卒業論文の質の向上を目的とする。卒業予定者が自らが準備している論文について報告を行い、それに対する質疑応答、討論を通して、言語現象に関する観察力や思考力を培うとともに、言語を分析する能力を高める機会にする。											
【到達目標】											
テーマが言語学の卒論として適当であるかを判断できるようになる。自分の準備しているテーマに関してどのような方法が適当であるかがわかる。その方法に応じて、どのようなアンケート調査、実験デザイン、文献調査、フィールドワークが必要であるかがわかるようになる。卒論の構成、論理、議論が適切であるかを判断し、必要な修正ができるようになる。卒論完成の見通しが立つようになる。											
【授業計画と内容】											
卒業予定者は、各自が取り組んでいる卒業論文について、少なくとも2回の間接発表を行う。発表者はハンドアウトを用意し、当該のテーマを着想するに至った経緯、当該のテーマに関する研究史と研究史上の問題点、各自の研究の進捗状況などを説明する。発表の後に、質疑・討論を行い、さまざまな言語学的問題についての理解を深める。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業時での発表と出席状況など、平常点で評価する。											
【教科書】											
発表者が準備するハンドアウトを使用する。											
----- 言語学(卒論演習)(2)へ続く -----											

言語学(卒論演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

1回目の発表の前に、テーマを確定し、基本的な調査を行い、必要な文献を理解しておくこと。基本的な論文の構成を考えておくこと。

2回目の発表の前に一回目の発表で受けた意見を取り込み、必要な文献・フィールド調査、実験、アンケート調査を行っていること。また、提出にいたるまでの課題・展望も示すこと。

(その他(オフィスアワー等))

本年度卒業を予定している学生は必ず受講すること。
卒業予定者以外(3年生、院生)の出席も歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 27246 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(基礎演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 南本 徹 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	基礎演習	使用 言語	日本語
題目		日本語の分析入門									
[授業の概要・目的]											
日本語を題材として言語学の基礎的な知識を身につけ、分析法を実践する											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語学の基礎的な知識を得る ・ 日本語を分析対象として客観的に考察できるようになる ・ 言語学分野の文献に親しむ ・ 英語で書かれた文献に親しむ 											
[授業計画と内容]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各受講者が教科書の担当箇所の内容をまとめて発表し、その内容をもとに教室全体で討議を行う ・ 担当箇所の割り当ては第1回授業の際に行う（1回に2名程度の予定） 											
第1回：導入、音声学 第2回：音韻論1（連濁、音節とモーラ） 第3回：音韻論2（アクセント） 第4回：形態論1（語の分類、自他対応） 第5回：形態論2（複合語形成） 第6回：統語論1（木構造、語順） 第7回：統語論2（再帰表現のふるまい、受動文） 第8回：統語論3（使役文、修飾節） 第9回：意味論1（直示表現とやりもらい表現） 第10回：意味論2（時制とアスペクト） 第11回：意味論3（動詞意味論、語用論） 第12回：レポート前発表1 第13回：レポート前発表2 第14回：言語内の多様性（方言など） 第15回：フィードバック											
（ただし、受講者数や理解度に応じてスケジュールを調節することがある）											
[履修要件]											
特になし											
----- 言語学(基礎演習)(2)へ続く -----											

言語学(基礎演習)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

担当箇所の発表（30％）、議論への積極的な参加（20％）、課題（20％）、期末レポート（30％）

[教科書]

Natsuko Tsujimura 『An introduction to Japanese linguistics』（Wiley-Blackwell）ISBN:9781444337730
（第3版、電子版あり）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

- ・自分の担当箇所であるか否かに関わらず、教科書を予め読み、疑問点やコメントを準備しておく（ただし、第1回授業については予習は不要）
- ・「音韻論」「形態論」「統語論」については、それぞれの終わりに課題を課すので、次の授業の際に提出する

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 27246 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(基礎演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 千田 俊太郎 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	基礎演習	使用 言語	日本語
題目		言語研究の現代的手法									
【授業の概要・目的】											
現代の言語研究を総合的に理解するための、現代の古典にあたる基礎的論文をテキストにして、重要な概念や分析手法をまなぶ。統語論から意味論にわたる分野を取り上げる。											
テーマは以下の通り											
1. 態											
2. Configurationality											
3. Place-holder											
4. 認知スケール											
5. 意味変化											
【到達目標】											
テキストとする論文には豊富なデータと分析例があるので、あらかじめ指定の部分をこなしてきていただく。毎回受け持ちの人が論文の内容を紹介し、授業を進める。この授業では言語学に初めて接する履修者を想定し、基本的な用語法などについては適宜追加の解説をする。授業においては、こちらからの一方通行的な知識提供に終始するのではなく、データ分析に共同で取り組んだり、議論を重ねながら、知識の運用とその方法について議論を深めていく。											
【授業計画と内容】											
1. はじめに											
2. 態											
3-6. Configurationality											
7-10. Place-holder											
11-12. 認知スケール											
13-14. 意味変化											
15. まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
積極的な授業参加(50%)、課題(50%)によつて成績をつける。											
----- 言語学(基礎演習)(2)へ続く -----											

言語学(基礎演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

配布資料以外の論文も積極的に探して自主的に学習を進めることが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に設定しませんが、アポイントメントをとつて下されば質問などに応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 27302 LJ45									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(社会学) (講義) Sociology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 紀行 文学研究科 教授 落合 恵美子 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		社会学概論I									
【授業の概要・目的】											
<p>前半は社会学の主要な理論・学派をいくつか取り上げて包括的に概観する。社会学の主要な理論的な伝統について基本的な考え方を紹介し、それらの成立過程、異同や相互関係を解説する。</p> <p>後半では社会学をより広い社会科学および科学全般の文脈に置き直し、社会を研究するとはどういうことなのかを、近代社会の歴史的転換とも関係づけながら考察する。</p>											
【到達目標】											
学問としての社会学の性格について学び、社会学の基礎的な理論的立場と基礎概念を理解する。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下の順で講義を進める。ただし講義の進み具合によって各テーマの回数は変動する可能性がある。											
<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 社会学の歴史</p> <p>第3回 機能主義理論</p> <p>第4回 コンフリクト理論</p> <p>第5回 ミクロ社会学の諸理論</p> <p>第6回 合理的選択理論</p> <p>第7回 理論的総合の試み (以上、田中担当)</p> <p>第8回 社会とは何か 個人と社会 (以下は落合担当)</p> <p>第9回 自然科学と社会科学 意味と規範</p> <p>第10回 社会科学の基盤としての歴史学 構造と歴史</p> <p>第11回 近代社会の成立</p> <p>第12回 近代社会の変容(1) 20世紀システム</p> <p>第13回 近代社会の変容(2) 第2の近代</p> <p>第14回 社会科学の再編成</p> <p>第15回 試験</p> <p>第16回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
-----系共通科目(社会学) (講義) (2)へ続く-----											

系共通科目(社会学) (講義) (2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

定期試験による。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

予習は特に指示がない限り必要ないが、授業中に紹介する参考書を各自の関心に応じて読んで復習することが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 27304 LJ45									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(社会学) (講義) Sociology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科		太郎丸 博 松田 素二 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		社会学概論 II									
【授業の概要・目的】											
現代世界で生起している諸現象を特徴付けるいくつかの重要なキーワードをとりあげ、前期で習得した社会学的な視点(社会学的方法論)を活用してどのようにしてその現象を認識し、どのようにしてその現象の背後にある(見えない)構造的な仕組みを理解することができるのかを明らかにする。											
【到達目標】											
現代世界で起きているさまざまな現象を表層的にとらえるのではなく、その現象が根ざしている、あるいはその現象をつくりだしているより深層の構造を批判的にとらえる社会学的想像力を身につけることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 オリエンテーション 現代世界を捉える方法 第2回 近代化論と現代社会 第3回 大衆消費社会論 第4回 後期近代とモダニティ論 第5回 資本主義の光と影 第6回 日本社会論 第7回 科学と知識の社会学 第8回 グローバル化と移民 第9回 多文化共生とマルチカルチュアリズム 第10回 共同体主義と自由主義 第11回 レイシズムとシティズンシップ 第12回 ジェノサイドと移行期正義 第13回 生活環境主義とコモンズ 第14回 日常的抵抗と生一政治 第15回 期末試験 第16回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点 20%、小レポート 40%、試験 40%。											
【教科書】											
使用しない											
-----系共通科目(社会学) (講義) (2)へ続く-----											

系共通科目(社会学) (講義) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習 (予習・復習) 等]

授業中指示した基本文献を精読すること

(その他 (オフィスアワー等))

* オフィスアワーの詳細についてはKULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系 4 2

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科		松田 素二 太郎丸 博 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会調査入門 (社会調査士科目A)									
【授業の概要・目的】											
本講義では、社会調査の意義と限界、さまざまな方法、およびそれらに関する基本的事項を学ぶ。質的調査と量的調査の両方を含む。社会調査士科目全体への入門に当たる。											
【到達目標】											
社会調査の基本的考え方、および質的調査と量的調査の代表的な方法について理解する。											
【授業計画と内容】											
1.社会調査とは何か 2.社会調査史と調査倫理 3.質的調査と量的調査 4.インタビュー調査とその事例(1) 5.インタビュー調査とその事例(2) 6.フィールドワークとその事例(1) 7.フィールドワークとその事例(2) 8.メディア分析とその事例(1) 9.メディア分析とその事例(2) 10.歴史資料の数量分析とその事例(1) 11.歴史資料の数量分析とその事例(2) 12.既存統計の利用法とその事例 13.質問紙調査とその事例(1) 14.質問紙調査とその事例(2) 15.社会調査の設計											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポート											
【教科書】											
使用しない											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で取り上げるいずれかの方法により、自分で調査を設計して実施する。

(その他(オフィスアワー等))

他の社会調査土科目も受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		移民児童・生徒に対する学習支援と社会統合									
【授業の概要・目的】											
京都市内小中学校在籍の多様なルーツをもつ児童・生徒に対して、学習支援を実施する。授業ではフィリピンと日本とのあいだの人の国際移動をとりあげ、関連論文等を精読する。(現段階では時期等は未確定だが)これらの成果のまとめとして、フィリピンに1週間程度訪れる「フィリピン研修」をおこなう。研修では、フィリピン政府訪問の他、現地調査(貧困・ジェンダー・労働市場など)を実施予定である。											
【到達目標】											
多文化社会の現実を体感し、それを客観的に記録する能力を培う。これは質的調査、特に参加型観察、アクションリサーチにつながる。またフィリピン研修では、フィリピン政府関係者に向けて英語でプレゼンテーション、ディスカッションをおこなうため、実践的な英語能力を養う。またフィリピン社会理解を通じて、貧困やジェンダー、国際移動に関する知見を深める。											
【授業計画と内容】											
学習支援の経験を共有するとともに、移民に対する教育、言語、労働、福祉分野における社会包摂に関する文献を読むことにしたい。また、以下についても取り扱う。											
<ol style="list-style-type: none"> 1 . オリエンテーション、orientation 2 . 学習支援の経験の共有、sharing experience of assistance for immigrant children 3 . 移民研究の動向について、research on immigrant children 4 . 人口構成の変化 Demographic change 5 . 開発と移住労働 development and migration 6 . 女性の労働力化と移住労働 feminization of labor and migration 7 . 人口政策と結婚移民 population policy and marriage migration 8 . 多文化共生・社会統合政策 social integration policy 9 . 人権の論理 logic of human rights 1 0 . 送り出し国の論理 logic of sending countries 1 1 . JFCの特徴 characteristics of Japanese Filipino Children 1 2 . フィリピン系移民の脆弱性 vulnerability of JFCs 1 3 . 経験の共有とまとめ(1) presentation on assistance 1 4 . 経験の共有とまとめ(2) presentation on assistance 1 5 . フィードバック feedback 											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

【履修要件】

この授業は移民児童・生徒に対する学習支援と授業を履修の要件とします。フィリピン研修の実施は未定で、評価の要件ではありません。

【成績評価の方法・観点及び達成度】

授業40%、レポート60%により評価する。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

京都市内の小中学校における特に移民を対象とした学習支援。毎回、簡単なレポートを書いてもらう。

(その他(オフィスアワー等))

その他重要事項については授業においてオリエンテーションを実施します。
asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp
を通じてアポを取る。(@)は@に。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 Stephane Heim 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		企業の社会学									
【授業の概要・目的】											
<p>企業は、社会、経済、資本主義の中で重要な役割を務める。20世紀になって、民間企業が大きな成長をとげ、現在の「国際化」「地域化」の時代で様々な変化が起こっている。</p> <p>企業はモノやサービスを提供することが経済的役割だと思われがちだが、社会的にはそれだけとは言えない。企業が政治、市場、教育、価値観などにも影響を与える。本授業で、「経済社会学」の観点から、企業を検討する。その上で、組織社会学の観点から、企業の組織を学ぶ。</p> <p>この授業では、様々な事例に基づいて、EUの市場化、国際自動車産業、サービス業、日本の産官学連携等、長年企業という経営組織に身を置いてきた者の立場から、企業が社会の変化や人々の意識の変化に如何に対応してきたのか、またこの利害関係者との調整が如何に行われて来たのかを考え、今後はどのような方向に進むべきかを考察する。</p>											
【到達目標】											
社会・企業での実践に直結した知識が得られる。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 企業と資本主義：企業とは何か？</p> <p>第2回 企業と社会：生命保険の事例等</p> <p>第3回 企業と市場：政治・顧客との関係</p> <p>第4回 企業間関係：日本の特徴</p> <p>第5回 企業と国際化の進展：自動車産業の事例</p> <p>第6回 企業とそのステークホルダ：コーポレートガバナンス（企業統治）</p> <p>第7回 企業とそのステークホルダ：労使関係</p> <p>第8回 企業統治構造改革の実例</p> <p>第9回 EU単一市場の形成と企業組織・統治の進化</p> <p>第10回 フランスにおける雇用制度・賃金制度・労使関係について</p> <p>第11回 企業と大学：能力とはなんだろうか？</p> <p>第12回 自動車産業の事例：アジアの変化</p> <p>第13回 自動車産業の事例：先進国と途上国</p> <p>第14回 授業のまとめ：企業、過去、現在、将来</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
受講生の関心により内容を変更することもある。											
【履修要件】											
特になし											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点とレポートによる

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

講義で使用する説明資料は事前に配布します。授業までに読んでください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 客員教授 荻野 昌弘 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		暴力と文化装置									
【授業の概要・目的】											
現代社会を「テロリズム」「戦争」「災害」「いじめ」のような暴力との関わりで捉えたのち、暴力を回避する文化装置（例.文化遺産制度）について講じる。											
【到達目標】											
マスコミ報道等で散発的に流布される情報の深層に何があるのかを理解する。また、空間・時間について社会学においてどのようなアプローチが可能かについて理解する。											
【授業計画と内容】											
以下の各項目について講義する。各項目は、受講生の理解度を確認しながら、【 】で指示した週数を充てる。各項目の講義順序はほぼこの流れで実施するが、講義の方針と、受講生の関心・理解度に応じて、適宜変更することもある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．本講義全体の内容説明と導入【 1 週】 2．テロリズムはなぜ生まれるのか【 2 週】 3．戦争と社会【 3 週】 4．いじめと社会【 2 週】 4．災害と社会【 2 週】 5．文化と暴力【 5 週】 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
小テスト（80%）およびリアクション・ペーパーに基づく平常点（20%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 荻野昌弘 『零度の社会－詐欺と贈与の社会学』（世界思想社）ISBN:4-7907-1148-X（参照の仕方は、授業中に説明する。） 荻野昌弘 『開発空間の暴力』（新曜社）ISBN:978-4-7885-1269-6（参照の仕方は、授業中に説明する。）											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

適宜参考文献を指示するので、それに目を通すことが望ましい。

毎回の講義が終了した後に、授業のノートを参照し、各回の授業を整理しておくこと、次回の授業が理解しやすい。

（その他（オフィスアワー等））

基本的に講義形式の授業であるが、授業内や授業後の積極的な質問やコメントを歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系 4 6

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 客員教授 荻野 昌弘 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会の原理									
[授業の概要・目的]											
社会学の誕生の経緯を概観した後、社会学の基本的アプローチについて講じ、現代社会学の理論的可能性がどこにあるのかについて考える。											
[到達目標]											
現代社会を捉えるための社会学理論の基礎的な考え方を習得し、現代社会の特徴が、より理論的に考察できるようになる。											
[授業計画と内容]											
1．社会学の誕生【3週】 2．社会学の三つのアプローチ（1）構造論的アプローチ【3週】 3．社会学の三つのアプローチ（2）関係論的アプローチ【3週】 4．社会学の三つのアプローチ（3）メディア論的アプローチ【3週】 5．現代社会学の新たな可能性【3週】											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
小テスト80%、リアクションペーパーに基づく平常点（20%）											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 荻野昌弘 『資本主義と他者』（関学出版会）ISBN:4-907654-01-4（参照の仕方は、授業中に説明する。） 荻野昌弘 『零度の社会』（世界思想社）ISBN:4-7907-1148-X（参照の仕方は、授業中に説明する。）											
[授業外学習（予習・復習）等]											
適宜参考文献を指示するので、それに目を通すことが望ましい。 毎回の講義が終了した後に、授業のノートを参照し、各回の授業を整理しておくこと、次回の授業が理解しやすい。											
（その他（オフィスアワー等））											
基本的に講義形式の授業であるが、授業内や授業後の積極的な質問やコメントを歓迎する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		竹沢 泰子 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人種・エスニシティ論									
【授業の概要・目的】											
人種・エスニシティ論に関する初心者向けの概説を行う。人種やエスニシティに関する概念から、ジェンダーや階級との交錯、科学的言説と人種主義、偏見とマイクロアグレッションなどについて幅広く扱う。授業では、講義に続いて、討論を行う。											
【到達目標】											
人種やエスニシティに関する基本的知識や考え方を身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 授業概要 第2回 人種とは何か 第3回 エスニシティとは何か 第4回 人種・ジェンダー・階級 第5回 同上 第6回 ゲスト 第7回 科学的人種主義 第8回 皮膚の色と偏見 第9回 同上 第10回 マイノリティの人骨問題 第11回 DVD 鑑賞 第12回 マイクロアグレッション 第13回 日本における人種・民族問題 第14回 同上 第15回 まとめ 第1回目の授業において、詳細なシラバスを配布する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点・提出物 30% 討論 30% テスト 40%											
----- 社会学(特殊講義) (2)へ続く -----											

社会学(特殊講義) (2)

[教科書]

未定
指定論文（コピー・PDFなど）

[参考書等]

（参考書）
指定論文（コピー・PDFなど）

[授業外学習（予習・復習）等]

予習：課題論文のサマリーを課す場合がある

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーはアポイントメント制

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 武川 正吾 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		福祉レジーム論									
【授業の概要・目的】											
<p>社会政策を分野別に見ていくのではなく、各分野に共通する基本的な考え方を学ぶことを目的とします。必要、資源、再分配、社会的分業などが鍵概念になります。また社会政策を制度化した福祉国家に関する社会学的な分析も紹介します。ジェンダー、グローバル化など現代の社会変動と社会政策の関連についても見ていきます。今年度は、社会政策の各論にもふれる予定です。</p>											
【到達目標】											
<p>福祉社会学の基本をなす理論枠組がどのようなものであるかを理解し、その視点から社会政策を吟味し、考察することができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉とは何か 2 必要 3 資源 4 官僚制と専門主義 5 社会政策の体系 6 雇用 7 所得保障 8 医療 9 福祉サービス 10 住宅 11 福祉の社会的分業 12 福祉国家 13 ジェンダー主流化と社会政策 14 グローバル化と社会政策 15 まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点50% , 小テスト50%											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

武川 正吾 『福祉社会新版』 (有斐閣)

[参考書等]

(参考書)

武川 正吾 『政策志向の社会学』 (有斐閣)

[授業外学習 (予習・復習) 等]

事前に教科書を読んで授業にのぞむこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 非常勤講師 伊藤 理史 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		基本的な統計資料とデータの分析(社会調査士科目C)									
【授業の概要・目的】											
<p>社会調査から得られる質的・量的データを扱うための知識・技能は、社会調査を行ったり、統計資料や調査報告書を理解する上で必要不可欠なものである。また実際に統計ソフトを用いて、データ分析を行うことは、社会生活の多くの場面で求められている。以上を背景として、本講義では、(1) 公的統計や調査報告書を理解できるようになること、(2) 基礎的な統計量や各統計量の算出法を理解し、基礎的なデータの分析が行えるようになることを目的としている。なお、本講義は社会調査士科目Cに対応する科目である。</p>											
【到達目標】											
<p>01. 度数分布、代表値、クロス集計、相関係数などの記述統計データの読み方を理解し、適切に計算することができる。</p> <p>02. データの種類に応じたグラフが作成できる。</p> <p>03. 相関関係と因果関係の違い、擬似関係と媒介関係の概念について理解できる。</p> <p>04. 基礎的なデータ分析を用いた資料を理解し、自ら作成することができる。</p> <p>05. Excelを用いて基礎的なデータ分析ができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の授業内容を組んでいる。ただし受講生のスキル、理解度に応じて順序や回数を変えることがある。</p> <p>01. イントロダクション：社会調査とデータ分析の意義</p> <p>02. 統計資料の整理1：統計資料の収集と読み方</p> <p>03. 統計資料の整理2：適切なグラフの選択と利用</p> <p>04. 主要な記述統計量1：度数分布表とヒストグラム</p> <p>05. 主要な記述統計量2：代表値(平均値・中央値・最頻値)</p> <p>06. 主要な記述統計量3：分布(範囲・分散・標準偏差)</p> <p>07. 相関関係と因果関係1：相関関係と因果関係の概念、散布図と相関係数</p> <p>08. 相関関係と因果関係2：回帰分析の基礎</p> <p>09. 相関関係と因果関係3：回帰分析の応用</p> <p>10. クロス集計1：クロス集計表の基礎と読み方</p> <p>11. クロス集計2：クロス集計表と関連係数</p> <p>12. クロス集計3：3重クロス集計表、疑似関係と媒介関係</p> <p>13. レポートの作成</p> <p>14. プレゼンの作成</p> <p>15. まとめ</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

授業中に行う小テスト(30%)、小レポートを複数回(30%)、期末レポート(40%)によって成績評価を行う。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

廣瀬毅士・寺島拓幸 『社会調査のための統計データ分析』(オーム社) ISBN:4274067637

神林博史 『1歩前からはじめる「統計」の読み方・考え方』(ミネルヴァ書房) ISBN:4623075702

【授業外学習(予習・復習)等】

予習は基本的に必要ありませんが、統計ソフトを用いた実習を含むので、適宜課題に応じて復習が必要となります。

(その他(オフィスアワー等))

計算をしてもらうので電卓が必要です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 野田 浩資 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		地域環境への社会的アプローチ - 地域社会の持続可能性とローカルガバナンス形成									
[授業の概要・目的]											
<p>現代社会では多様な環境問題が生じているが、環境問題が自然科学の対象であるにとどまらず、環境問題の解決には環境問題のもつ社会的側面の解明が求められている。環境問題への社会的アプローチの諸理論を紹介し、主に地域レベルでの環境問題の事例を取り上げ、環境問題のもつ社会的特質と現代社会における社会的意思決定のプロセスを解明していく。具体的事例を検討しながら、地域環境を社会的にとらえるためのパースペクティブを身につけることを目的とする。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の環境問題の多様性とその特質を理解する。 ・ 環境社会学の諸理論を理解する。 ・ 地域環境をめぐる諸事例へ社会学的手法を適用する。 											
[授業計画と内容]											
<p>地域レベルでの環境問題をめぐる事例を取り上げ、地域社会と地域環境の課題にアプローチする。琵琶湖-淀川水系の水環境問題、京都市の景観問題などの具体的な事例の分析を通じて、人々の環境に対する意識の形成、環境問題の紛争化と解決のプロセス、住民参加と環境NPOなどについて議論を進めていく。地域社会のサステナビリティ（持続可能性）と環境ガバナンス形成、「環境の埋め込まれた現代社会における地域社会の課題と将来について考察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 地域環境という問題領域（1～2回） 2. 自然環境保全と地域社会の持続可能性 <ul style="list-style-type: none"> - 琵琶湖-淀川水系の水環境問題中心として（3～6回） 3. 歴史的環境保全と地域社会の持続可能性 <ul style="list-style-type: none"> - 京都市の景観問題を中心として（7～10回） 4. 持続可能な地域社会とローカルガバナンス <ul style="list-style-type: none"> - 参加・協働型地域社会形成の到達点と課題（11～14回） 5. まとめ 地域社会と地域環境（15回） 											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
<p>授業内レポート(30%)、および、期末レポート試験(70%)の総合による。 平常点は、授業内レポートで評価する。</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業内で関連資料を配付する。

[参考書等]

(参考書)

鳥越皓之・帯谷博明編 『よくわかる環境社会学』(ミネルヴァ書房)

船橋晴俊・古川彰編 『環境社会学入門』(文化書房博文社)

関・中澤・丸山・田中著 『環境の社会学』(有斐閣)

[授業外学習(予習・復習)等]

授業内で配布する文献資料を予習、復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 産業社会学部 准教授 文学研究科		丸山 里美 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		質的調査の方法 (社会調査士科目F)									
【授業の概要・目的】											
<p>質的調査の代表的な方法である、インタビュー、参与観察などの方法を、実際に体験しながら学ぶ。また、質的調査を行う際の倫理や、質的調査でえられたデータをいかに解釈するかについても検討する。それを通して、質的調査を実施できるようになることが目的である。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 質的調査の特徴について説明できるようになる。 ・ 質的調査を実施できるようになる。 ・ 質的調査を実施する際の倫理について理解する。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の進め方、自己紹介 2 質的調査とは何か 3 質的調査の代表的な成果 (1) 4 質的調査の代表的な成果 (2) 5 質的調査の代表的な成果 (3) 6 インタビューの方法 (1) 7 インタビューの方法 (2) 8 参与観察の方法 (1) 9 参与観察の方法 (2) 10 質的データをいかに解釈するか (1) 11 質的データをいかに解釈するか (2) 12 質的データをいかに解釈するか (3) 13 質的調査の倫理 (1) 14 質的調査の倫理 (2) 15 授業のまとめ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点 (60点)、レポート (40点)											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に出される課題に取り組む必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 阿部 真大 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代社会の諸問題									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は社会学の基礎的な知識を取得することにある。講義を4つのテーマに分け、現代社会の問題を扱いつつ、表象分析と理論の探求を通じて、社会的な思考を深めていく。											
【到達目標】											
社会学の基本的な考え方を理解し、その視点から現代社会を批判的に分析することができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【 】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。											
1．本講義の概要【1週】 2．グローバル化と格差、貧困【3週】 マイルドヤンキー、社会に組み込まれた貧困、分断と排外主義 3．ジェンダーと家族、公共性【5週】 複合差別、男性学、戦後家族、郊外化、新しい公共 4．やりがい搾取とプロフェッショナリズム【2週】 職業の社会的役割、労働組合 5．社会調査と方法、対象【3週】 参与観察、モノの社会学 6．フィードバック【1週】											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポート(60%) 平常点(40%)											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

次の回の課題となる文献等を読んで、自分の考えをまとめておく。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45											
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科				非常勤講師 辻 竜平 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語		
題目		社会ネットワークの諸相											
【授業の概要・目的】													
<p>社会ネットワークは、主として情報伝播の経路という側面と、協力の発生源という側面がある。この授業では、特に後者の側面に焦点を当てて講義する。</p> <p>社会ネットワークは、協力を生み出すことによって、さらにそれ自体が維持される。それは、ネットワークの構成者にとって「きずな」でもあり「しがらみ」でもある。</p> <p>また、ネットワークの状態によって、目標が達成されたり、社会が変化する契機になったりすることもある。</p> <p>そこで、社会ネットワークや社会関係資本について、抽象的な意味での協力から具体的な文脈における協力まで、理論的・実証的にいくつか取り上げて論じてみたい。</p>													
【到達目標】													
<p>社会ネットワークが、どのようなメカニズムである現象を引き起こすのかについて考えることによって、社会をモデルとして捉える考え方の重要性を理解できるようになるだろう。</p> <p>また、モデルは実証によって検証されなければならないが、一般的な社会調査法や分析法に加えて社会ネットワークに関わる独特な調査法や分析法とその問題点について理解できるようになるだろう。</p>													
【授業計画と内容】													
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会ネットワーク研究の理論的基盤【1週】 2. 社会ネットワークの研究法とその問題点【2週】 3. 社会ネットワークと抽象的な意味での協力【4週】 4. 社会ネットワークと具体的な社会的文脈における協力【4～5週】 5. 社会ネットワークと幸福・社会的格差【2～3週】 6. 再び、社会ネットワーク研究の理論・研究法について【1週】 7. レポート試験 <p>フィードバックは、KULASIS上で行う。</p>													
【履修要件】													
特になし													
【成績評価の方法・観点及び達成度】													
<p>数回の課題もしくは小レポート（計60点）と期末レポート（40点）により総合的に判断する。</p> <p>期末レポートは、到達目標の達成度に基づき評価する。</p>													
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----													

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

毎回、レジユメを配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業に際して、事前に文献リストを配付するので、それを読んだ上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		落合 恵美子 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		家族とジェンダーの社会学									
【授業の概要・目的】											
<p>私生活を営むにも、さまざまな仕事の中でも、人生において「家族」や「ジェンダー」にまつわる事柄に関わる場面は少なくない。誰もが知っていることと思いがちだが、それだけに思い込みや古い知識に囚われやすく、正確に認識して判断することが難しい。本講義では、この知っているようで知らない「家族」や「ジェンダー」について、正当に考察するための社会的な枠組みや見方を学ぶ。自明性から自由になるという社会学の醍醐味の実践でもある。</p> <p>日本の「家族」や「ジェンダー」について考察するには、自明性の罫に加えて、さらなる難しさがある。ヨーロッパや北米で作られた社会科学の常識からずれる現実があり、そのずれをいかに解釈すべきかという問題がつかまとうからである。アジアの家族、あるいは東アジアの家族として一括できるかというところがまた問題である。本講義では、変容する世界の中で「日本」をいかに位置づけ直すかという課題にも取り組むことになる。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 現代日本の家族とジェンダーに起きている変化を正確に知る。 2 日本家族の変容を「家族の戦後体制」の成立と崩壊として捉えることを学ぶ。 3 日本の家族とジェンダーの変容を世界的視野に位置づけられるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 導入 2 女は昔から主婦だったか 3 二人っ子革命と核家族 4 家族の戦後体制 5 ウーマンリブとニューファミリー 6 育児不安と双系化 7 個人を単位とする社会 8 家族の戦後体制は終わったか 9 二〇世紀システムの転換 10 近代世界の転換と家族 11 戦後政治と家族 12 ケアダイヤモンドと福祉レジーム 13 親密圏と公共圏の構造転換 14 家族問題と家族政策 15 総合討論 											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点と期末レポートにより総合的に判断する。
平常点は授業での報告と積極的な発言を評価する。

[教科書]

落合恵美子 『21世紀家族へ【第4版】』（有斐閣）

[参考書等]

（参考書）

落合恵美子 『二〇世紀システムの転換と家族（仮題）』（有斐閣）

[授業外学習（予習・復習）等]

授業中に教科書・参考書等について発表するための準備時間が必要。発表者以外も該当箇所を読んでくる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		落合 恵美子 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Asian Families and Intimacies: Intra-regional Diversity and Transcultural Dynamics									
【授業の概要・目的】											
<p>To date, the research work of Asian scholars on their respective societies has typically been relayed to other areas of Asia through European and North American academic circuits. This mediated communication has not only produced a significant distortion in focus, but has also resulted in a failure to appreciate the shared intellectual heritage of the different societies of the Asian region as well as the differences of emphasis and orientation among them. The ‘ Asian Families and Intimacies ’ series, the textbook used in this course, has been planned by the Asian researchers from 9 societies who have been collaborating with Kyoto University Asian Studies Unit (KUASU) for years as the first realization of a larger project, entitled ‘ Asian Intellectual Heritage ’, designed to collect, translate and share important and influential writings that are key texts of the academic and intellectual heritage of societies across Asia. The editors have decided to launch this ambitious project with a series on families and intimacies because ‘ the family ’ has typically been attributed a special cultural value in Asian societies.</p> <p>This course will enable students with diverse backgrounds to engage directly and unmediatedly with the insights into the key issues of our times from the ‘ insiders ’ perspective ’ of Asian intellectuals and provide them chances to discuss with each other and contribute to imagining the foundation on which future collaborations across the Asian region can be built.</p>											
【到達目標】											
<p>(1) To learn about the shared intellectual heritage of the different societies of the Asian region as well as the huge historical and contemporary diversity both in theory and in practice.</p> <p>(2) To liberate ourselves from Orientalism and self-Orientalism so as to better understand ourselves and our neighbours and redefine our and their places in a changing world.</p> <p>(3) To understand the varying and intersecting processes of ‘ Sinicization ’, ‘ Sanskritization ’, ‘ Modernization ’, and ‘ Globalization ’ across the Asian region as well as more local transcultural dynamics.</p> <p>(4) To learn about changes in the family and intimate relations which are of deep and pressing concern in the Asian region today.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>0. Introduction [1 week]</p> <p>1. Families, Ideologies and the States [2 weeks]</p> <p>2. Varieties of Patriarchy and Patrilineality [2 weeks]</p> <p>3. Sexual Modernities and Transforming Intimacy [2 weeks]</p> <p>4. Marriage Formation [2 weeks]</p> <p>5. Care and Familialism Reconsidered [2 weeks]</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

6. Gender Roles and Identities [2 weeks]

7. Conclusion [1 week]

8. Feedback [1 week]

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

Oral presentation (30%), final report (40%), participation (30%).

【教科書】

The ‘ Asian Families and Intimacies ’ series to be published from Sage edited by the researchers from nine Asian countries (Thailand, Korea, India, Vietnam, Japan, the Philippines, Taiwan, China and Indonesia) who have been collaborating with Kyoto University Asian Studies Unit (KUASU).

1. Families, Ideologies and the States [edited by Thanet WONGYANNAVA (Thammasat University, Thailand)]
2. Varieties of Patriarchy and Patrilineality [edited by EUN Kisoo (Seoul National University, South Korea)]
3. Sexual Modernities and Transforming Intimacy [edited by Patricia UBEROI (formerly, Institute of Economic Growth, Delhi, India)]
4. Marriage Formation [edited by NGUYEN Huu Minh (Vietnamese Academy of Social Sciences)]
5. Care and Familialism Reconsidered [edited by OCHIAI Emiko (Kyoto University, Japan)]
6. Gender Roles and Identities [edited by Carolyn SOBRITCHEA (University of The Philippines)]

【参考書等】

(参考書)

【授業外学習（予習・復習）等】

The participants are expected to spend a certain amount of time outside of this class reading the textbooks and preparing for the oral presentations.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Welfare Regime and Cross-Border Migration									
【授業の概要・目的】											
<p>This course will discuss how welfare regimes intertwine with migration regimes in the process of rapid economic development and demographic change in Asian countries. One of the features of the Asian economic miracle was not only utilizing the demographic dividend and high educational attainment of its labor force, but also accepting migrants, domestic workers in particular, to facilitate the participation of local women in the labor market. From the social policy side, liberal familism in Asian countries justified maintenance of “ family value ” and the commercialization and externalization of reproductive work by recruiting foreign domestic worker as an extra family member. Sometimes this familism triggered cross border marriage for the formation of family welfare and this became the foundation of multiculturalism in some societies. In the process of demographic ageing, some Asian countries also borrowed institutional frameworks of welfare states in Europe such as Korea, Japan, and Taiwan. Therefore, divergence of welfare regime of Asian countries is observed.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will receive basic instruction on welfare policy, migration policy and related policies in Asian countries.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>A detailed plan for each class may be changed depending on the participants. The contents of the course include the following classes.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Economic development in Asia 2. Demographic change 3. Diversity of political system 4. Development and migration 5. Feminization of labor and migration 6. Ageing and migration 7. Population policy and marriage migration 8. Social integration/multicultural policy 9. Logic of human rights and migration 10. Policy of sending countries 11. International labor market formation 12. International collaboration and mutual benefit 13. Welfare Regime 14. Familism 15. Conclusion 											
----- 社会学(特殊講義) (2)へ続く -----											

社会学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

reflection papers(50%) and term paper(50%).

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

readings and reaction comments are important.

(その他(オフィスアワー等))

Please make an appointment through the email below.

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

を通じてアポを取ること。(@)indicates@

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		人の国際移動と移民研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では、外国人労働者や移民といった「人の国際移動」に関して、日本やアジア諸国、欧州諸国の現状を理解したうえで、最新の移民研究への知見を深める。人の国際移動については社会的関心が非常に高まっているが、さまざまな言説が存在し、現状把握が困難な分野である。現状と理論、双方への理解を深めたい。											
【到達目標】											
人の国際移動は感情的な議論に陥りやすいが、エビデンスをもとに分析・解釈できるようになることを目標とする。また、グローバルな視点、ジェンダーの視点をはじめ、多角的に人の国際移動をとらえる能力を養う。											
【授業計画と内容】											
以下の点をおさえて授業を展開します。 1 . アジアの経済成長とその要因 Economic development in Asia 2 . 人口構成の変化と国際移動 Demographic change and migration 3 . 多様な政治体制 Diversity of political system 4 . 開発と移住労働 development and migration 5 . 女性の労働力化と移住労働 feminization of migration 6 . 高齢化と移住労働 ageing and migration 7 . 人口政策と結婚移民 population policy and marriage migration 8 . 多文化共生・社会統合政策 social integration policy 9 . 人権の論理 logic of human rights 10 . 送り出し国の論理 logic of sending countries 11 . 開発と国際労働市場 international labor market formation 12 . 国際協調体制の構築 international collaboration and mutual benefit 13 . EUにおける人の移動 14 . 総括 15 . フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点40%、レポート60%											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

毎回A4一枚程度のreflection paperを提出してもらう。

(その他(オフィスアワー等))

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp に連絡の上、事前にアポを取る。(@)は@に

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 紀行 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ドイツ語による社会学入門									
【授業の概要・目的】											
ドイツの複数の社会学者によってドイツ語で書かれた社会学の入門書のいくつかの章を精読し、社会学の魅力や社会的知識の社会的重要性、社会学の中心問題などについて、具体例の考察を通して学ぶ。受講者は毎回1人ずつ自分の担当箇所（1回につき2ページ程度）について日本語訳と用語解説等を用意し、レジュメを配布して報告する。他の出席者も予習してきた上で報告内容について検討する。											
【到達目標】											
ドイツ語の社会学文献の読み方を習得するとともに、社会的思考方法の基礎や社会学という学問の性格や社会的意義などについて理解する。辞書を引ながら独力で社会学のドイツ語文献を正確に読解できる能力の習得を目標とする。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 授業の趣旨説明、テキストの紹介、担当者の割り当て等。 第2回～第14回 テキストの輪読 毎回約2ページずつ読み進め、3章程度を読み終える予定。 第15回 まとめ 学習した重要な事項について総括する。											
【履修要件】											
前年度までにドイツ語の授業を少なくとも初級、できれば中級まで履修していること。社会学の知識は必要ない。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
基本的には平常点（報告レジュメ）によって評価する。ただし、受講生が非常に多い場合には試験を実施することもある。											
【教科書】											
Uwe Schimank, N. M. Schöneck (Hg.) 『Gesellschaft begreifen. Einladung zur Soziologie』 (Campus Verlag) ISBN:978-3-593-38765-9 (授業で取り上げる 章のコピーを配布する。)											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

受講者には毎回読み進める箇所を予習してくることが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 産業社会学部 准教授 文学研究科		丸山 里美 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		貧困とジェンダー									
[授業の概要・目的]											
この授業では、貧困とジェンダーに関連した文献を毎週輪読していくことを通して、この問題に関する理解を深め、自らの考えを説明できるようになることが目的である。文献は日本語のものと英語のものを両方とりあげ、受講者の関心も考慮しながら決定する。授業は、参加者の報告とディスカッションの演習形式で行う。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 貧困概念について説明できる。 ・ 貧困とジェンダーとの関わりを理解する。 ・ 先行研究を批判的に読むことができる。 ・ 他者と論理的に議論をすることができる。 											
[授業計画と内容]											
1 . 導入と今後の進め方 2 ~ 4 . 貧困概念の理解 5 ~ 9 . ケイパビリティ・アプローチ 10 ~ 14 . 貧困とジェンダー（英語文献） 15 . フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（70点）、レポート（30点）											
[教科書]											
アマルティア・セン 『不平等の再検討 潜在能力と自由』（岩波書店）ISBN:4000028782 ルース・リスター 『貧困とはなにか 概念・言説・ポリティクス』（明石書店）ISBN: 4750333743 その他、受講生の関心に応じて決定し、授業中に指示する。											
[参考書等]											
（参考書）											
[授業外学習（予習・復習）等]											
毎週、指定文献を読んでから授業に出席することが必須である。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET30 37334 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学 (特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 准教授 文学研究科		落合 恵美子 Stephane Heim 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	3	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		東アジア社会論									
【授業の概要・目的】											
<p>「東アジア社会」についての理解を深めることを目的に、京都大学、国立台湾大学、ソウル大学の社会学科・社会学専修が共同で実施する授業であり、今年度は11年目となる。学期中の授業では、東アジア社会について3大学の教員が交替でスカイプ授業を行う。その後、京都、台北、ソウルのいずれかでワークショップとフィールドトリップを実施する（今年度は京都）。ワークショップでは、3大学から参加した学生が、各自の関心にしがたって英語で研究発表を行う。ホスト校の学生は、その社会をさまざまな角度から知ってもらうためのフィールドトリップを企画して実施する。国際的な共同授業、学部生が主体となる英語ワークショップという、全国にも類例のない授業であり、近隣の諸社会との共通性と相違を身をもって理解し、グローバルな活動経験を積む機会となる。国境を越えた友人ができることも楽しい収穫となるだろう。何年か続けて受講して3都市を回るリピーターも歓迎する。</p>											
【到達目標】											
<p>(1)東アジア社会、とりわけ台湾や韓国に関する文献を読み、講義を受け、フィールドトリップに参加することで、東アジアに関する全般的かつ経験的理解を深める。 (2)国立台湾大学、ソウル大学の学生たちとの直接の交流を通じて、隣国の同世代の人たちの関心、考え方、実力を知り、交流を深める。 (3)英語のプレゼンテーションを実施し、質問の受け答えができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>4～5月 3大学の教員によるスカイプ授業 6～7月 各自の関心にしがたってパワーポイント資料を作成し、英語で発表練習を行う。 7月末 ワークショップとフィールドワーク</p>											
【履修要件】											
英語での受講と研究発表に最低限必要な学力、もしくはチャレンジ精神をそなえていることが求められる。社会学専修以外の学生も履修できる。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業へのコミットメント、ワークショップとフィールドトリップへの積極的参加、英語でのプレゼンテーションにより評価する。詳細は授業で説明する。											
【教科書】											
使用しない											
----- 社会学 (特殊講義) (2)へ続く -----											

社会学（特殊講義）(2)

[参考書等]

（参考書）

各講義につき論文1本程度を指示する。Kulasisからダウンロードすること。

[授業外学習（予習・復習）等]

各講義につき論文1本程度をあらかじめ読んでくる。各自の関心にしたがって発表資料を作成する。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は最初の授業で説明する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 37361 PJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(実習) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		太郎丸 博 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	水4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		社会調査の実際 社会調査士科目G									
【授業の概要・目的】											
社会調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひととおり体験的に学習する。そのような体験を通して、講義で得た知識の身体化を目指す。そのためには、授業時間外の作業が多く必要となる。また、他の受講者との相談や共同作業も多くなる。											
【到達目標】											
調査の企画、実施、データの入力、分析、報告書の作成ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
1課題あたり1~2週の授業をする予定											
前期											
1. 調査の企画と仮説構成											
2. 調査項目の設定・質問文・調査票の作成											
3. プリテストと調査票の修正											
4. 対象者・地域の選定とサンプリング											
5. 調査の実施（調査票の配布・回収、面接）											
6. エディティング											
7. 集計、分析											
8. データの視覚化											
9. 仮説検証											
10. 報告書の作成											
後期											
1. データの入力・読み込み											
2. 単純集計表、ヒストグラムの作成											
3. 変数の操作											
4. クロス集計表、帯グラフの作成											
5. 散布図、箱ヒゲ図の作成											
6. データセットの分割・結合											
7. 独立性の検定											
8. 平均値の差の検定											
9. 多重クロス表分析											
10. 回帰分析											
----- 社会学(実習)(2)へ続く -----											

社会学(実習)(2)

【履修要件】

社会調査士科目A～Eをあわせて受講することが望ましいが、強制ではない。

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

轟亮・杉野勇 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』(法律文化社) ISBN:978-4589032577

盛山 和夫 『社会調査法入門』(有斐閣) ISBN:978-4641183056

【授業外学習(予習・復習)等】

復習重視。宿題が頻繁に出る。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 27401 LJ39									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(地理学)(講義) Geography (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 水野 一晴 文学研究科 准教授 米家 泰作 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		地理学概説									
【授業の概要・目的】											
<p>地理学の視点と方法論について，具体的な研究事例や学史的背景に触れながら概説する。とりわけ，地理的知識，環境と人間の関係，そして自然や空間・立地・場所といった基礎的な概念について，理解を深めることを目的とする。地理学専修への分属志望者にとっては入門的な講義となる。</p>											
【到達目標】											
<p>地理学の基本的な諸テーマについて，どのように検討・形成されてきたかを，学史的発展をたどりつつ理解し，考察することができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のようなテーマで授業をする予定である。</p> <p>前期（水野担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 気候変動と地球の歴史 2 大陸移動と火山活動 3 火山灰や花粉からみた環境変遷 4 環境変遷と日本の歴史 5 気候変動と世界の歴史 6 気候変動と東京の地形発達 7 気候変動と名古屋・大阪の地形発達 8 京都の地形発達 9 京都の地形と土地利用 10 京都の地形と防災 11 日本の植生分布 12 世界の植生分布 13 多様な環境と世界の社会 14 多様な環境と世界の文化 15 フィードバック <p>後期（米家担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> 16 はじめにー人文地理学の近現代ー 17 頭の中の地図 メンタルマップ 18 空間認知とその発達 子供の地図 19 場所という経験 人文主義/現象学的地理学 20 風水地理 民俗知としての地理学 21 気候と文明 環境決定論と近代地理学 22 環境変化と文化景観 新大陸の地理学 23 日本の風土論の系譜 和辻とベルク 											
----- 系共通科目(地理学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(地理学)(講義)(2)

- 24 分布とパターン 空間的相互作用
- 25 都市が作る空間秩序 - 立地論と中心地論 -
- 26 空間と社会 時間地理学と空間編成
- 27 地図の想像力 ジョボディと共同体
- 28 アイデンティティの空間 ジェンダー地理学
- 29 地理教育と国家 地理的知のポリティクス
- 30 フィードバック

【履修要件】

高校地理の履修の程度は問わない。

前期の授業時には、高校の時に使用していた地図帳（帝国書院、二宮書店など）を授業時に持参すること（持っていない人は購入してください）。

特別な許可がない限り、授業時のパソコン、携帯電話、スマホの使用を禁止する（ノートは手書きで行うこと）。

【成績評価の方法・観点及び達成度】

前期・後期，それぞれにおいて，試験（70％）と平常点（30％）とで成績評価を行う。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

水野一晴 『自然のしくみがわかる地理学入門』（ベレ出版）ISBN:978-4-86064-430-7

水野一晴 『人間の営みがわかる地理学入門』（ベレ出版）ISBN:978-4-86064-467-3

竹中克行編 『人文地理学への招待』（ミネルヴァ書房）ISBN:978-4-623-07229-3

人文地理学会編 『人文地理学事典』（丸善）ISBN:978-4-6210-8687-2

野間晴雄ほか編 『ジオ・パルNEO[第2版]:地理学・地域調査便利帖』（海青社）ISBN:978-4-8609-9315-3

【授業外学習（予習・復習）等】

特に必要ない

（その他（オフィスアワー等））

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		水野 一晴 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		世界の自然環境と人々の生活や社会 1									
【授業の概要・目的】											
世界の各地域の気候環境は多様である。その多様な自然環境の中で人々は独自の社会や文化を生み出してきた。本講では、世界のいくつかの地域を取り上げ、その場所の気候、地形、植生、土壌、水文環境などの自然環境を説明し、その自然環境の中で歴史的に人々はどのように定住していったのか、あるいは人々はその自然をどのように利用しながら生活を営んでいったのか、自然とどのように向き合っているのかなどの点から検討する。また、地球温暖化などの長期的あるいは異常気象などの短期的な気候変化が、自然や人間活動にどのような影響を及ぼしているかについても議論する。											
【到達目標】											
世界各地の気候、地形、植生、土壌といった自然環境要因の複合的作用およびその変化について理解する。自然環境が人間活動とどのように関わっているかを考察し、その一方の変化が相互作用によって大きく両者に関わっていくことを理解する。世界の地域ごとにその自然環境のもとで多様な社会や文化が生み出されていることを理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．ポリネシアの自然環境と社会・文化 [1週] 2．アフリカの歴史的環境変遷 [1週] 3．日本アルプスと大雪山の植生の立地環境とその30年間の変化 [2週] 4．アフリカの自然と民族 [2週] 5．ケニア山とキリマンジャロの環境変遷と植生変化 [3週] 6．ナミブ砂漠の自然や植物・動物と人間活動 [3週] 7．アンデスの自然と人間活動 [2週] 6．フィードバック [1週] 											
【履修要件】											
<p>高校の時に使用していた地図帳（帝国書院、二宮書店など）を授業時に持参すること（持っていない人は購入してください）。</p> <p>高校で地理を履修していなくても十分理解できます。</p> <p>特別な許可がない限り、授業時でのパソコン、携帯電話、スマホの使用を禁止する（ノートは手書きで取ること）。</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（80％）と小テスト（20％）による評価・・・毎回配るコメント・質問用紙や授業内での発言、小テストなど											
----- 地理学(特殊講義) (2)へ続く -----											

地理学(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

水野一晴 『気候変動で読む地球史 - 限界地帯の自然と植生から - 』 (NHKブックス) ISBN:978-4-14-091240-9

水野一晴 『世界がわかる地理学入門 - 気候・地形・動植物と人間生活』 (ちくま新書) ISBN:978-4-480-07125-5

[授業外学習(予習・復習)等]

授業が理解できたかどうか把握し、理解できなかった部分については次回授業で質問してください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		水野 一晴 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		世界の自然環境と人々の生活や社会 2									
【授業の概要・目的】											
<p>世界の各地域の気候環境は多様である。その多様な自然環境の中で人々は独自の社会や文化を生み出してきた。本講では、世界のいくつかの地域を取り上げ、その場所の気候、地形、植生、土壌、水文環境などの自然環境を説明し、その自然環境の中で歴史的に人々はどのように定住していったのか、あるいは人々はその自然をどのように利用しながら生活を営んでいったのか、自然とどのように向き合っているのかなどの点から検討する。また、地球温暖化などの長期的あるいは異常気象などの短期的な気候変化が、自然や人間活動にどのような影響を及ぼしているかについても議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>世界各地の気候、地形、植生、土壌といった自然環境要因の複合的作用およびその変化について理解する。自然環境が人間活動とどのように関わっているかを考察し、その一方の変化が相互作用によって大きく両者に関わっていくことを理解する。世界の地域ごとにその自然環境のもとで多様な社会や文化が生み出されていることを理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．インド、ヒマラヤ地域の自然と民族 [2週] 2．インド、ヒマラヤ地域の歴史と社会の成り立ち [2週] 3．インド、ヒマラヤ地域のチベット仏教、ボン教と地域社会 [3週] 4．インド、ヒマラヤ地域の森林分布と樹木利用 [1週] 5．インド、ヒマラヤ地域の牧畜活動 [1週] 6．インド、ヒマラヤ地域の農耕活動 [1週] 7．世界各地の自然と社会・文化 [3週] 8．総合討論 [1週] 9．フィードバック [1週] 											
【履修要件】											
<p>高校の時に使用していた地図帳（帝国書院、二宮書店など）を授業時に持参すること（持っていない人は購入してください）。</p> <p>高校で地理を履修していなくても十分理解できます。</p> <p>特別な許可がない限り、授業時でのパソコン、携帯電話、スマホの使用を禁止する（ノートは手書きで取ること）。</p>											
----- 地理学(特殊講義) (2)へ続く -----											

地理学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点(80%)と小テスト(20%)による評価・・・毎回配るコメント・質問用紙や授業内での発言、小テストなど

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

水野一晴 『神秘の大地、アルナチャル - アッサム・ヒマラヤの自然とチベット人の社会 - 』(昭和堂) ISBN:978-4-8122-1173-1

Mizuno, K. & Tenpa, L. 『Himalayan Nature and Tibetan Buddhist Culture in Arunachal Pradesh, India』(Springer) ISBN:978-4-431-55491-2

水野一晴 『世界がわかる地理学入門 - 気候・地形・動植物と人間生活』(ちくま新書) ISBN:978-4-480-07125-5

[授業外学習(予習・復習)等]

授業が理解できたかどうか把握し、理解できなかった部分については次回授業で質問してください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 米家 泰作 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		山と森の歴史地理									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、環境の利用・改変・管理・認識の視点から、日本の山村と森林の歴史地理を検討する。日本の山村は現在、過疎化や限界集落、廃村といった大きな問題に直面しているが、かつては多くの人々が山や森の動植物に依拠して暮らしていた。山村における人と環境との関係史を、歴史地理学あるいは環境歴史学的な観点から捉えるならば、森林を改変しながらも、それを巧みに利用・管理する暮らしのあり方が浮かび上がってくる。本講義では、地理学・歴史学・民俗学の議論を紹介しながら、山村と森林の歴史地理をたどることで、人と環境の関係について様々な視点に触れるとともに、現在の山村や森林のあり方について、理解を深める機会を提供したい。</p>											
【到達目標】											
<p>現在様々な問題を抱える山村地域に関して、その歴史地理的背景を理解するとともに、人間と環境の関係史を広い視野から動的に捉える能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．山と森の歴史地理 <ol style="list-style-type: none"> 第1回 人と環境の関係史 第2回 秋山記行の世界 2．森林に依拠した生業 <ol style="list-style-type: none"> 第3回 堅果食の系譜 第4回 狩猟とその周縁化 第5回 焼畑と森林管理 3．山をめぐる自然観 <ol style="list-style-type: none"> 第6回 山の神とは誰か 第7回 修験道の自然観 4．森林の破壊と改変 <ol style="list-style-type: none"> 第8回 木地師と木工の系譜 第9回 禿げ山と草原 第10回 育成林業の登場 5．山と森の近代 <ol style="list-style-type: none"> 第11回 風景としての山岳 第12回 登山とナショナリズム 第13回 近代林学と植生管理 第14回 内なる異文化 第15回 フィードバック 											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

授業のテーマに関する小論文試験を行い，到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

米家泰作 『中・近世山村の景観と構造』(校倉書房) ISBN:4751733508

宮本真二・野中健一 『自然と人間の環境史』(海青社) ISBN:4860992717

池谷和信・白水智 『山と森の環境史』(文一総合出版) ISBN:4829911999

(関連URL)

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD3iQ>(講師の研究業績など(京都大学教育研究活動データベース))

<https://www.facebook.com/komeie.taisaku>(講師のフェイスブック)

【授業外学習(予習・復習)等】

授業中に紹介する参考文献を含めて，関連する論文や文献に積極的に触れ，問題関心を深めてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 米家 泰作 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代の地理的知と帝国日本									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、近代の日本において地理的な表象や言説が果たしてきた政治的・経済的・社会的な役割を、批判的に検討する。近年の歴史・文化地理学では、地理的な表象や言説に関する議論が盛んに行われている。その動向を踏まえて、地図・土地調査・旅行記・地誌・学術調査・史蹟景観をめぐる地理的知の諸相と、その受容や理解の具体例を分析する。その際、本講義では特に朝鮮半島に着目するが、内地や他の植民地にも適宜注意を払う。</p>											
【到達目標】											
<p>地理的な知の役割を歴史的に俯瞰し、その意義を批判的に捉える能力を養うとともに、様々な歴史地理的資料に関する基本的事項を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1．地理的知の近代 第1回 歴史地理学と言語論的転回 第2回 オリエンタリズムと心象地理 第3回 歴史地理学と帝国主義</p> <p>2．朝鮮像の系譜 第4回 近世日本の朝鮮像 第5回 明治日本の朝鮮像と地誌編纂</p> <p>3．植民地のマッピングと空間把握 第6回 朝鮮の測量と地図化 第7回 森林資源の地図化</p> <p>4．学知と植民地 第8回 学知の動員と焼畑の行方 第9回 「知的征服」とその諸相</p> <p>5．史蹟とその経験 第10回 史蹟とコロニアルツーリズム 第11回 史蹟の保存と経験 第12回 征服神話と植民地 第13回 帝国縁辺部へのツーリズム</p> <p>6．帝国日本の心象地理 第14回 「近代」概念の空間的含意 第15回 フィードバック</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

授業のテーマに関する小論文試験を行い、到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

J・モリッシーほか(上杉和央監訳)『近現代の空間を読み解く』(古今書院)ISBN:4772231848

B・グレアム, C・ナッシュ『モダニティの歴史地理』(古今書院)ISBN:4772214704

D・リヴィングストン『科学の地理学: 場所が問題になるとき』(法政大学出版局)ISBN:4588371207

J. Agnew & D. N. Livingstone『The SAGE Handbook of Geographical Knowledge』(SAGE Publications)ISBN:1412910811

(関連URL)

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD3iQ>(講師の業績など(京都大学教育研究活動データベース))

<https://www.facebook.com/komeie.taisaku>(講師のフェイスブック)

【授業外学習(予習・復習)等】

授業中に紹介する参考文献を含めて、関連する論文や文献に積極的に触れ、問題関心を深めてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		防災研究所 准教授 松四 雄騎 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		湿潤変動帯の自然地理学とその応用としての斜面減災論									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、自然地理学の応用としての自然災害（特に斜面災害）の被害軽減（減災）に関する方法論を学び、その実現に向けた基礎データを取得するための野外調査法および室内実験法を実習する。</p> <p>山地や丘陵地が国土の大半を占める日本列島では、豪雨や地震によってしばしば斜面から土砂が流出し、下流域に被害を及ぼす。土砂災害による人的・物的被害は、高度経済成長期以降の砂防・治山事業の拡充による人工構造物の配備により、それ以前と比べて格段に減少してきたが、近年、極端な豪雨の頻度増大により、再び増加しつつある。日本人はそもそも、居住域に隣接する傾斜地（里山）で得られる燃料や湧水といった資源を利用し、その恩恵を受けてきたが、それと同時に斜面の崩壊や地すべり、土石流といった斜面災害の脅威にもさらされてきた。地域に根差した住民が斜面と共生していた時代に培われていた減災のための知恵は、傾斜地での道路敷設や宅地開発といった自然環境の改変行為を可能にした現代的な土木技術の発達と、それによる山際居住区の拡大と新規住民の移入とともに、失われつつある。居住域周辺斜面からの土砂流出による被害を軽減するためには、空間的に飽和し、コスト的にも限界に達しつつあるハード対策だけでなく、住民自力での警戒・避難を促すソフト対策の高度化が不可欠である。そのためには地域の地理環境の成り立ちを深く理解し、それを土台に世代を超えて持続可能な減災方策を備えた地域社会の形成をめざす必要がある。これはまさに自然地理学の応用問題であるといえよう。本授業では、斜面災害の地質・地形的背景（素因）や、降水浸透あるいは地震動といった引き金（誘因）が、なぜ・どのようにして土砂流出を引き起こすのかについて、野外実習と室内実験を通して、自ら地盤構成材料に触れ、その物性を定量的に把握し、データの解析を行うことで体験的に学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>実習形式の授業を通して、温暖湿潤帯における自然地理環境とそこで起こる地球表層プロセスを概観し、山地の斜面をつくる地盤材料の定性的な観察法、およびその水理学・土質力学的性質の定量化法を学び、斜面減災を実現するための自然地理学的方法論について考察できる力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>夏季の集中講義とし、野外および室内での実習形式での授業を行う。 日程は9月中の連続した3日間を設定する。</p> <p>授業のスケジュールおよびその中で取り上げるテーマとトピックスは以下の通り。</p> <p>1日目: 野外巡検 京都近郊の丘陵地を対象に、地盤の構成物とその性質および陸域水循環に伴う地形変化過程について概説する。また、過去に発生した斜面崩壊跡地を観察し、森林土壌の断面を作成して、土層試料の採集を行う。</p> <p>2日目: 室内実験 + データ解析</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

採集した試料を用いて、宇治キャンパスにおいて水理・力学的な試験を行う。

3日目: 室内実験 + データ解析 + ゼミ

宇治キャンパスにおいて引き続き実験を行うとともに、得られたデータを用いて、雨の浸透や斜面の安定に関する計算を行い、斜面ハザード評価の方法論について討論する。

テーマとトピックス

- (1) 自然地理学における野外観察の基礎と方法
- (2) フィールドサイエンスにおける理論・法則・モデルの役割
- (3) 人間社会を取り巻く自然環境の成り立ち
- (4) 陸域水循環の概要と流域生態系の恒常性
- (5) 森林水文学の基礎と山地流域における降雨流出過程
- (6) 斜面の地形変化と土砂災害の発生メカニズム
- (7) 地理的な防災・減災の方法論
- (8) 自然地理学における実験法とデータ分析法の基礎
- (9) 地盤構成材料の水理・力学特性とその意味
- (10) 地理情報システムと地形計測
- (11) 地図解析および実験・計測における精度と確度
- (12) データの整理と統計処理の基礎
- (13) 流域表層現象のモデル化と計算法
- (14) 製図法とアカデミックライティングの基礎
- (15) 総括とフィードバック

授業を通じて、野外観察の方法、実験による定量データの取得方法、自然現象のモデル化について習得するとともにフィールドノートや実験ノートの記載方法、データの整理方法、製図や記述の方法等のアカデミックライティングについて具体的に指導する。

フィードバックについては、実習終了後に必要に応じて、教員オフィスあるいはEメールにて質問に答えるほか、レポートに講評を記入することも含む。

【履修要件】

学生教育研究災害傷害保険等の傷害保険に加入していること。

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点(50%)およびレポート(50%)の評価による。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

関連する論文等を授業の中で配布・紹介する。

地理学(特殊講義)(3)へ続く

地理学(特殊講義)(3)

[授業外学習（予習・復習）等]

3日間の授業期間中にはデータ解析や討論準備を課題として出すので、ホームワークとしてこなすこと。

（その他（オフィスアワー等））

第一日目は京都近郊の丘陵地でのフィールドワークとなるため、動きやすい靴と服装に手袋や帽子を着用の上、虫よけや雨具、筆記用具・野帳・カメラといった個人装備を揃えて参加すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学 グローバルスタディーズ研究科 教授 文学研究科		内藤 正典 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		イスラーム世界と西欧の関連地域論									
【授業の概要・目的】											
現代世界におけるイスラーム世界と西欧世界との関係を多面的に論じる											
【到達目標】											
現代世界において発生している様々な事象、紛争・戦争、難民・移民、排外主義、既存の領域国民国家体制の崩壊などについて、俯瞰的に把握する視角を身につける。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 いま、中東・イスラーム世界で何が起きているかを概観する 3 いま、西欧世界とイスラーム世界との関係で何が起きているかを概観する 4 紛争と戦争 1 5 紛争と戦争 2 6 紛争と戦争 3 7 移民と難民 1 8 移民と難民 2 9 移民と難民 3 10 「テロ」のような暴力はなぜ多発するのか 12 多文化共生はなぜ困難か 1 13 多文化共生はなぜ困難か 2 14 領域国民国家体制の崩壊と将来 15 総括 フィードバックは、ノート返却の際に行います。											
【履修要件】											
出席点はないが、4回以上欠席すると単位取得要件を満たさない。 遅刻と早退は0.5回分の欠席とカウントする。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点30% (出席状況および小レポート) 期末レポート70%											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

内藤正典 『限界の現代史』（集英社新書）

[参考書等]

（参考書）

内藤正典 『となりのイスラム』（ミシマ社）

[授業外学習（予習・復習）等]

授業内容に関して、文献を調べてノートにまとめる。

（その他（オフィスアワー等））

希望者とは適宜調整する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学 グローバルスタディーズ研究科 教授 文学研究科		内藤 正典 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ヨーロッパとイスラーム									
【授業の概要・目的】											
ヨーロッパとイスラーム世界の関係について演習形式で授業を行う。参加者は、現代のヨーロッパおよび中東・イスラーム世界で発生する事象をフォローし、それについて授業で発表し討論を行う。											
【到達目標】											
現実に発生している問題を多角的にとらえる視角をやしなう											
【授業計画と内容】											
1 オリエンテーション 2 問題提起 3 グローバル・イシューとしての視角 1 4 グローバル・イシューとしての視角 2 5 移民・難民問題の概説 6 報告 1 7 報告 2 8 報告 3 9 紛争と戦争の概説 10 報告 1 11 報告 2 12 イスラームとの共生に関する問題 13 報告 1 14 報告 2 15 総括 フィードバックは、ノート返却の際に行います。											
【履修要件】											
出席は必須。出席点はないが欠席 4 回以上で単位取得要件を満たさない。 遅刻・早退は欠席 0 . 5 回とカウントする											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点 1 0 0 % (報告と討論の内容を評価する)											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

内藤正典 『限界の現代史』（集英社新書）
内藤正典 『ヨーロッパとイスラーム』（岩波新書）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

授業内容に関して、文献を調べてノートにまとめる。

（その他（オフィスアワー等））

希望者とは適宜調整する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小池 司朗 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人口統計と地域人口分析									
[授業の概要・目的]											
<p>本講義では、主として地域人口分析に関する知見を深めることを主たる目的とする。社会科学での分析研究において利用頻度が非常に高い人口統計、および人口分析に不可欠な出生・死亡・人口移動の各種指標について体系的に説明するとともに、様々な人口統計を用いた人口分析例や、国立社会保障・人口問題研究所で行っている将来人口推計の解説を通じて、地域における人口分析の重要性を学ぶ。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・人口統計についての基礎知識を習得する。 ・各種の人口指標が持つ意味について理解する。 ・将来人口推計の手法の会得を通じて、コーホート観察の重要性が認識できるようになる。 ・将来人口推計の結果が容易に解釈できるようになる。 ・様々な人口分析例を学ぶとともに、各地域の人口構造が地域人口に及ぼす影響の大きさを理解し地域人口に関する考察を深める。 											
[授業計画と内容]											
<p><第1部：現下の人口問題>（2回） 本講義の導入部分として、近年の地域別人口動向と人口減少に伴う様々な問題について解説する。</p> <p><第2部：人口統計の種類>（2回） 人口統計を静態統計と動態統計に分け、それぞれに含まれる各種の統計について具体的なデータと近年の話題などを交えて説明する。</p> <p><第3部：出生・死亡・人口移動の指標>（4回） 人口分析に不可欠な出生・死亡・人口移動の各種指標について、具体的な計算例などに加え、それぞれの指標の持つ意味を解説する。</p> <p><第4部：将来人口推計の手法と結果>（3回） 将来人口推計を行う際の一般的な手法、および国立社会保障・人口問題研究所で実施している将来人口推計における推計手法について説明するとともに、地域別の将来人口推計の結果を紹介し、地域差が生じる要因等について解説する。</p> <p><第5部：地域人口に関する様々な分析例>（4回） 様々な人口統計を活用した地域人口研究の例を紹介することによって、公表されている人口統計等からいかなる分析が可能かについて説明する。</p> <p>受講生の関心や全体の進捗状況によって、各部を構成する内容・回数が増減することがある。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

成績評価の方法・観点及び達成度

レポート 70%

講義中に行う小テスト 30%

集中講義期間中，一日を超えて欠席した場合には原則として単位を認定しない。

[教科書]

使用しない

講義中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

石川義孝 『人口減少と地域 地理学的アプローチ』(京都大学学術出版会) ISBN:4876987254

石川義孝・田原裕子・井上孝 『地域と人口からみる日本の姿』(古今書院) ISBN:4772252533

国立社会保障・人口問題研究所 『日本の人口動向とこれからの社会: 人口潮流が変える日本と世界』
(東京大学出版会) ISBN:4130511394

大友篤 『地域分析入門』(東洋経済新報社) ISBN:4492312390

濱英彦・山口喜一 『地域人口分析の基礎』(古今書院) ISBN:4772250042

国立社会保障・人口問題研究所 『日本の地域別将来推計人口 - 平成27(2015)～57(2045)年 -』
(厚生労働統計協会)(近刊予定です。)

Stanley K. Smith, Jeff Tayman, David A. Swanson 『A Practitioner's Guide to State and Local Population Projections』(Springer) ISBN:9400775504

[授業外学習(予習・復習)等]

予習としてe-Stat等に掲載されている様々な人口統計を閲覧すること，復習として参考文献や授業中に紹介する書籍や論文を熟読することが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

- ・ 計算を伴う小テストを実施するため，電卓を持参されたい。
- ・ 集中講義のため，授業時間外の質問等は下記のメールアドレスまで連絡されたい。

koike-shiro@ipss.go.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手代木 功基 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		環境地理学の基礎と実践 1									
【授業の概要・目的】											
<p>地理学は本来人文社会科学と自然科学の特徴を合わせ持ち、多様な時間・空間スケールで対象を分析することができる。こうした地理学的な研究は、様々な課題解決や異なる専門性を接合する可能性を持っているが、その方法論は確立されていない。本講義では、地域の環境を地理学的に理解するための基礎的な視点や方法論を学び、領域ごとの分析的研究にとどまらない、俯瞰的な研究の重要性を理解することを目的とする。本授業では主に滋賀県高島市朽木を事例として、環境に関わるトピックを紹介し、それについて実際に考え、議論するという形で授業を実施していく。本授業を通じて、環境地理学的な視点を実際に研究活動や実生活に役立てていくことを期待する。</p>											
【到達目標】											
<p>環境の見方の基礎力を養い、日常で目にする自然景観の形成要因やその文化との関わり、環境問題等について論理的に理解できるようになることを目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. (統合)地理学と環境地理学 2. 動態地誌と環境地理学 3. 朽木のイントロダクション 1 4. 朽木のイントロダクション 2 5. 鯖街道と断層 6. トチノキ巨木林の立地環境 7. トチノキ伐採問題を考える 8. トチノキの保全運動と地域おこし 9. 全国のトチノキ林とその利用 10. 山村の課題と可能性 11. 環境に関する調査を学ぶ(地形判読・GIS) 12. 環境に関する調査を学ぶ(地形と植生の関係) 13. 環境に関する調査を学ぶ(人為植生の成立) 14. 環境に関する調査を学ぶ(土地利用と環境問題) 15. まとめ・フィードバック <p>受講者の希望等によって、内容は変化する可能性がある。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

授業内の積極性やレスポンスシートの内容といった平常点（50点）及び期末レポート（50点）で評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

授業内で紹介した参考文献等に目を通す、授業内で討論を行うための事前準備等

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手代木 功基 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		環境地理学の基礎と実践 2									
【授業の概要・目的】											
<p>地理学は本来人文社会科学と自然科学の特徴を合わせ持ち、多様な時間・空間スケールで対象を分析することができる。こうした地理学的な研究は、様々な課題解決や異なる専門性を接合する可能性を持っているが、その方法論は確立されていない。本講義では、地域の環境を地理学的に理解するための基礎的な視点や方法論を学び、領域ごとの分析的研究にとどまらない、俯瞰的な研究の重要性を理解することを目的とする。本授業では東アジア乾燥地域を主な事例地域として、環境に関わるトピックを紹介し、それについて実際に考え、議論するという形で授業を実施していく。本授業を通じて、環境地理学的な視点を実際に研究活動や実生活に役立てていくことを期待する。</p>											
【到達目標】											
<p>環境の見方の基礎力を養い、日常で目にする自然景観の形成要因やその文化との関わり、環境問題等について論理的に理解できるようになることを目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. (統合) 地理学と環境地理学 (2) 2. 動態地誌と環境地理学 (2) 3. 東アジア乾燥地域のイントロダクション 1 4. 東アジア乾燥地域のイントロダクション 2 5. モンゴルの乳製品と環境 6. 馬をめぐる環境学 7. 放牧地生態学と遊牧民 8. モンゴルにおける砂漠化問題 1 9. モンゴルにおける砂漠化問題 2 10. 東アジア乾燥地域の環境史 1 11. 東アジア乾燥地域の環境史 2 12. 海を育む陸域の環境 13. 環境に関する調査を学ぶ (リモセン・GIS) 14. 環境に関する調査を学ぶ (乾燥地のフィールドワーク) 15. フィードバック <p>受講者の希望等によって、内容は変化する可能性がある。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

授業内の積極性やレスポンスシートの内容といった平常点（50点）及び期末レポート（50点）で評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

授業内で紹介した参考文献等に目を通す、授業内で討論を行うための事前準備等

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		杉浦 和子 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Spatial Analysis of Premodern Maps I									
【授業の概要・目的】											
<p>This course introduces a series of procedures for map analysis: reading spatial information on maps, abstracting spatial patterns from spatial information, and clarifying geographical significance. The teaching materials are Chinese maps and geographic books describing the region along the Great Wall in the Qing dynasty. This lecture aims to enhance students' understanding the research process that elucidates the regional structure of the frontier defense zones, such as the hierarchy of military bases and the stratification of jurisdiction territories.</p>											
【到達目標】											
<p>During the course, participants are expected to learn the following three points: (1) procedures used to find hidden patterns from the drawn and written information presented on maps; (2) mapping technics based on explanations in historical books and documents; and (3) geographical interpretations of map patterns indicating regional structures.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The lecture plan is as follows:</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) Defense maps in the history of Chinese cartography (1 week) (2) Frontier defense maps made in the Ming and Qing dynasties (1 week) (3) Shanxi region along the Great Wall and its military importance (2 weeks) (4) Observation of old Chinese maps and books of geography and history of Chinese frontiers (2 weeks) (5) Chronology and classification of Shanxi frontier maps (2 weeks) (6) Geographical information presented on Shanxi defense maps (2 weeks) (7) Jurisdiction territories of military bases: position and area (2 weeks) (8) Networks between military bases: centrality and density (2 weeks) (9) Summary and feedback (1 week) 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
The final grade will be evaluated according to usual performance (40 %) and reports (60%).											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

When extra learning outside the class is necessary, it will be announced in class.

(その他(オフィスアワー等))

From 11:00 am to noon on Wednesdays
"Office hours" are registered on KULASIS.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉浦 和子 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Spatial Analysis of Premodern Maps II									
【授業の概要・目的】											
<p>This course introduces a series of procedures for map analysis: reading spatial information on maps, abstracting spatial patterns from the spatial information, and clarifying geographical significance. The teaching materials are Chinese maps and geographic books describing the allocation of the Eight Banners in the capital, Beijing, in the Qing dynasty. This lecture aims to enhance students' understanding of the research process that elucidates the urban spatial structure, such as the delineation and arrangement of defense areas for the Eight Banners and the dispersion or uneven distribution of defense positions of Banners.</p>											
【到達目標】											
<p>During the course, participants are expected to learn the following three points: (1) steps to find hidden patterns from the drawn and written information presented on maps; (2) mapping technics based on explanations in historical books and documents; and (3) geographical interpretations of map patterns indicating urban spatial structures.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The lecture plan is as follows:</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) History of Chinese capital city maps (2 weeks) (2) Various types of Beijing maps (1 week) (3) Observation of old Chinese maps of Beijing (1 week) (4) Hand-drawn maps, size, scale, detailed information, practical uses, and rarity (1 week) (5) Eight Banners in the Qing Dynasty (1 week) (6) Three armies of the Eight Banners stationed in the capital, Beijing, during the Qing Dynasty (2 week) (7) Qing Beijing maps representing the disposition of the Eight Banners (1 week) (8) Beijing maps of the Eight Banners stored in various organizations in Japan and overseas (2 weeks) (9) Comparison and dating of Beijing maps of the Eight Banners (2 weeks) (10) Similar maps made after the destruction of the Qing Dynasty (1 week) (11) Summary and feedback (1 week) 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
The final grade will be evaluated according to performance (40 %) and reports (60%).											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

When extra leaning outside the class is necessary, it will be announced in class.

(その他(オフィスアワー等))

From 11:00 am to noon on Wednesdays
"Office hours" are registered on KULASIS.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。